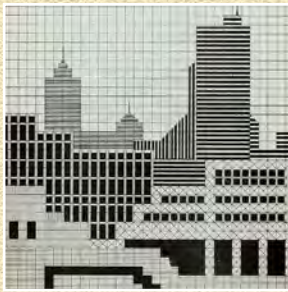




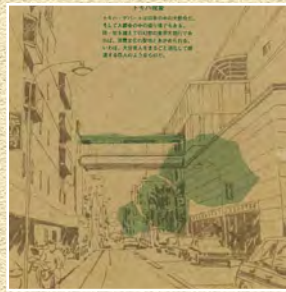
1975.No.1



1979.No.17



1983.No.31



1987.No.50

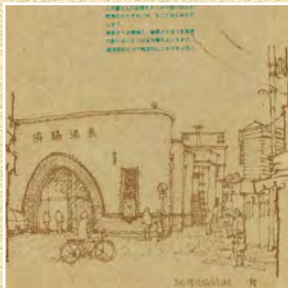


1988.No.51

# 100 建築士 おおた



1988.No.52



1988.No.53



1988.No.54



1989.No.55



1989.No.56



1990.No.58



1990.No.59



1991.No.60



1992.No.61



1993.No.63



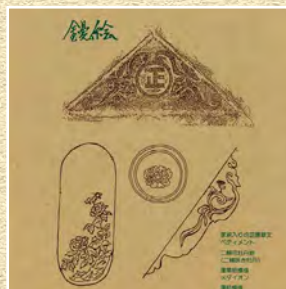
1994.No.63



1995.No.64



1995.No.65



1996.No.66



2002.No.85 50周年記念誌



社団法人 大分県建築士会

2007 NO 100



# CONTENTS

## 1. 100号記念挨拶

～会 長～	
～女 性 部～	
～国 東 支 部～	～高 田 支 部～
～大 分 支 部～	～別 府 支 部～
～佐 賀 関 支 部～	～臼 杵 支 部～
～津 久 見 支 部～	～佐 伯 支 部～
～玖 珠 支 部～	～日 田 支 部～
～三 重 支 部～	～竹 田 支 部～
～中 津 支 部～	～宇 佐 支 部～
～大 分 支 部～	前編集委員長 松崎 和夫
～大 分 支 部～	元編集委員長 宮崎 敏信
12. あなたのお住まい安心ですか？	大分県障害福祉課
13. 特集：建築士の集い 大分大会	青年部会長 後藤 憲二
～第1分科会～	〈中津支部〉青年部長 山村 増治
～第2分科会～	〈臼杵支部〉青年部長 板井 祐輔
～第3分科会～	〈大分支部〉清水 剛
17. 地域実践活動報告を終えて	〈大分支部〉籾山 和大
18. 個人的図書紹介 Vol.15	〈大分支部〉笠木 忠昭
20. MY WORK	〈三重支部〉〈中津支部〉〈別府支部〉〈臼杵支部〉
22. 会員紹介	〈大分支部〉〈佐伯支部〉〈日田支部〉〈日田支部〉
24. インフォメーション	
～大 分 支 部～	芳山 智奈
～佐 賀 関 支 部～	渡邊 豊基
～津 久 見 支 部～	街並調査会
～中 津 支 部～	富部 直
～別 府 支 部～	籠田真一郎
～三 重 支 部～	後藤 康仁
～竹 田 支 部～	伊東 政博
34. おおいた建物発掘隊	〈竹田支部〉伊東 政博
36. 女性部会のPage	〈女性部〉
41. シリーズ登録文化財 No.21 別府市児童館	〈別府支部〉岡田 宏基
42. 行政だより	大分県建築住宅課
43. 事務局だより	
1) 事務局長挨拶	幸 孝三
2) 新会員紹介	事務局
3) (社)大分県建築士会 建築構造技術センターの発足について	
45. 平成19年度 通常総会報告	事務局
47. 編集後記	



## 「建築士大分」100号に 思いをよせて

会長 芳山 憲祐

昭和50年（1975）2月に発行された「建築士大分」が第1号だったと思います。

その年は、4月に大分県中部地震があり、それは直下型の揺れで別府のホテルが倒壊しました。また、建築士会の事務局が大分県建築課から大分恒和ビル7階に移ったのも同じ年の10月でした。

さて、「建築士大分」は毎年4回発行していたようですが、創立40周年頃からは年1回となり平成8年（1996）の飯田会長のころの第62号からは、年3回になったけれども、その後また予算の都合などで年2回になり今に至っているようです。

会誌の内容は年々充実しており、特別企画や本部行事の記録から各支部日より、そして会員の紹介や、会員の作品を紹介するなど、更には舌検隊なるものの連載など毎回楽しみに読んでいます。

この会報を担当する広報や編集係りの皆様には、企画から取材、それに原稿の校正などその絶え間のないご努力に深く感謝を致します。

最近ではインターネットが普及して、ブログやホームページ、メールなどに移行するなか、私はいつでもどこでも手軽に持ち歩いて読める手づくり会誌に馴染んでいます。けれども、第100号を期にして会誌を振り返り今後を考えてみるのも意義あることと思います。

第1号発刊の年は、組織として大分支部に県下で初めて青年部が発足し、事業では第1回ソフトボール大会が開催されました。それから、32年を経た現在では各支部に青年部があり、本年6月には九州各地から青年建築士が集い『九州ブロック「建築士の集い」大分大会』が開かれ、多くの青年の力が結集しました。

さてその一方で、社会の建築士を取り巻く環境は様変わりをして、建築基準法と建築士法の大幅な改正が行われ、建築物の耐震性に対する安全性や建物の保証制度の基準が大幅に変更になりました。そこで、建築士会では6月に委託事業の一貫として特別委員会「建築構造技術センター」を新たに設置して、構造に関する建築確認申請の安全性を確認をする作業を開始しました。

今後ますます建築士に対する重要性が高まるなか、その時代に相応しい機関誌として、建築士にとって役立つ会誌であることに加えて、楽しみに待つことができるのであればと願っています。



## 「建築士おおいた第100号」を お祝いして

大分県女性部部长 阿南 春美

「建築士おおいた 第100号」を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。

大分県建築士会に女性部が誕生したのは今から約10年前、初代女性部会長開静子氏によって発足されました。

開氏のあとを引き継いで早6年、やっと大分県の中でも女性部が何か活動をしているなど、知られてきたような気がします。

引き継いだ頃はこういった活動をすればいいのかと悩みながらの思考錯誤で、今思えば肩に力が入った活動をしていたなあと、反省しています。

今は、青年部ほど活発に活動はしているとはいえませんが、女性部会員の中には主婦（私も含む）の方もおり、時間的に厳しい点もありますが、無理せず私なりに会を進めて行こうと思っています。

女性部の主な活動は年1回、全国女性建築士連絡協議会に参加することです。

これは、東京ー地方ー東京と行なわれている会議です。

この日は日本全国から、女性建築士約400名が集まり、それぞれの県での活動報告や分科会での勉強が、2日間に渡って行なわれます。大分からは、毎年2～10名ほどの参加があります。

（東京は人気だけど地方はいまひとつ）

この大会で、九州の女性部の人達との交流会が恒例となっています。

また、去年から、大分県農林水産部林産振興室からの委託事業で、県産材推進事業として、見学会や講演会を行なっています。

建築に携わっている女性の方々に多く参加して頂け、また一般市民の方々にも参加して頂けるような事業がありましたら、ご一報頂きたいと思っています。

この100号というのは節目の号でもあります。

また、新たな一步を踏み出す為のスタート地点でもあります。未来に向かってさらなる飛躍をしますことを期待して、ご挨拶とさせていただきます。



建築物行巻図 1985.No.40 より



## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

国東支部 支部長 上野 貢一

機関誌「建築士おおいた」が記念すべき100号を迎えられましたことを中心よりお喜びを申し上げます。

また、今日に至るまで編集に携わってこられました関係者の皆様にはその御労苦に感謝をささげたいとおもいます。

振り返れば私が今から三十数年前、入会させていた国東支部には約八十名近くの会員さん達がおられ、ちょうど高度経済成長期の真っ只中で何をすることもスケールが大きく忘年会、新年会そして支部総会と、そのつど支部をあげての一泊がけで別府へ繰り出していたことを懐かしくおもいだされます。

また、全国大会が近県で開催されれば大型バスを貸しきって研修会と会員同士の親睦を兼ねて参加したものでした。

そのうちバブルがはじけ景気が悪くなると士会を脱会する会員さんも増えてきました。

それに当市では過疎化が一段と進み支部も収入が激減し大変苦しい運営を余儀なくされています。

今では会員35名で支部総会もほとんど役員が出席し、委任状と合わせて辛うじて総会が成立すると言った本場に寂しい支部になってしまいました。

そして今、構造計算偽装以降、建築士のモラルがとやかく問われ始められ、また再発防止にむけて建築基準法や建築士法の一部見直しや改正が施行され新しくスタートしたばかりです。

私たちが今一度原点に戻って建築士の使命や役割を見つめ直す必要があるかと思われまます。

そしてより一層の専門知識を身に付け建築士としての資質の向上に努めなければならないと思っていますところ。

しかし、人口3万4200人のこの国東市で建築設計事務所を生業として生活していくこと自体が困難な時代になって来たことも事実です。



## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

高田支部 支部長 安部 一夫

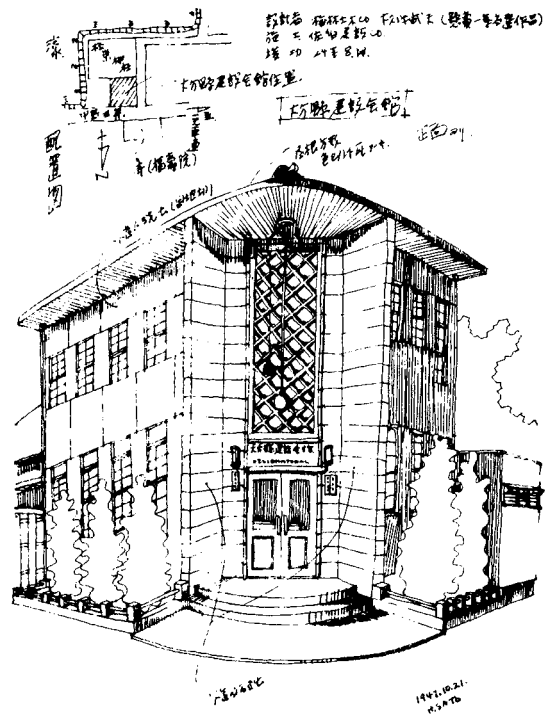
「建築士おおいた」100号おめでとうございます。継続は力なりと申しますが、号数を重ね、150、200号と続かれることを、心からお祈りします。

さて、現在の建築士及び建設業界をとり巻く環境は非常に厳しいものがある様に思います。一段と責任の重さを皆さんも感じている事と思います。建築基準法、士法、建設業法の改正と増々規制の強化の方向で推移していると考えます。

これも先の事件の後ではいたしかたの無い事ではありますが、残念でなりません。

これに怯む事なく、切磋琢磨し、日々の研鑽する事こそがこの難関を乗り切る一つの方法と考えますが、如何でしょうか？

まだまだ残暑厳しき折、皆様の御健勝を祈ります。



### ●大分県建設会館

復興第1号コンペ。略平面あり、斬新な外観を求む。各社より多数の応募あり、審査の結果当時梅林土木KK大久保武雄氏が一等当選となり、佐伯建設の施工で昭和24年8月竣工。当時としては斬新な建物でした。

1978.No.12より





「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

大分支部 支部長 大塚 文美

建築士「おおいた」100号の発行、おめでとうございます。歴代の編集委員さんをはじめ、これまで編集・発行に携わってこられた皆様方に感謝申し上げます。

また、会員の皆様とともに、この建築士「おおいた」100号の発行をお祝いしたいと思います。

さて、昨今、私たち建築士を取り巻く情勢は、個人の人々のニーズの多様化、地球規模での環境への配慮等、大きく変革しております。

このような中、建築士「おおいた」も会員への情報発信誌としての役割を果しつつ、年々進化し会員以外の方々にも高い評価を得ているのではと感じています。

さて、私たち建築士会は、士会の目的とする「会員の協力により建築士の業務の進歩改善及び品位の保持向上を図り建築文化の進展に寄与すること」の達成のため、各種の研修会、講習会、その他親睦のためのソフトボール大会等が開催されています。

同時に、このような活動を通じ会員相互のコミュニケーションが図られています。

しかし、同じ会員とはいえ職種の幅も広く、なかなか一同が会する機会がないのが現状です。

このようなことから会員相互のコミュニケーション等を補完するためにも建築士「おおいた」が果す役割は大きなものがあると考えます。

さらに、このことは重要になると感じています。

今後もこの建築士「おおいた」が建築士会員の情報発信の場、情報交換の場、併せて新たな情報を得る場として、また、会員以外の方々にも、これまで以上に親しめる内容のものとなるよう会員一人一人が建築士「おおいた」の誌面づくりに参画し、誌面のより一層の充実を図りたいものです。

最後に建築士「おおいた」100号発行の重ねてのお祝いと会員の皆様方のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



三ノ丸 櫓門 (重要文化財)

1986.No.47より



「建築士おおいた」100号によせて

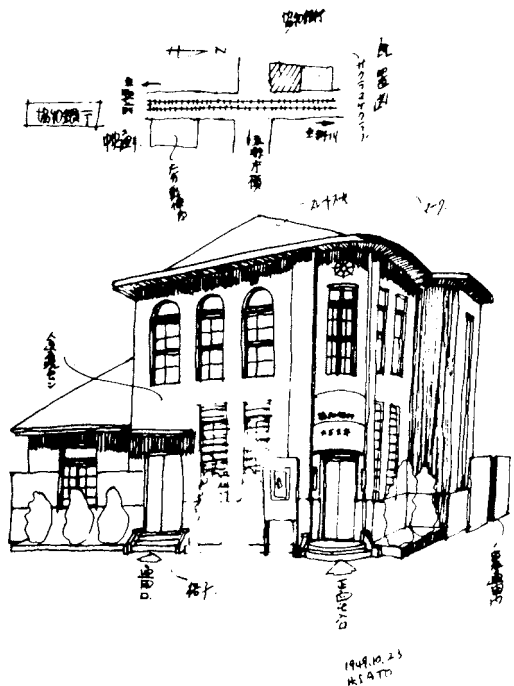
別府支部 支部長 幸 勝美

「建築士おおいた」発刊100号お疲れ様！

100号発刊するには33年余りの時間を要し数多くの編集委員各位の努力と大分県建築士会各支部、各会員が活動を積み重ねたすえにたどり着いた結果であり、活動の歴史が刻み込まれた100号であると思うと、皆さんの努力に感謝し私自身活動に参加できたことを嬉しく思うයි。

さて、「建築士おおいた」のコラム中で会員紹介は非常によい企画だと思います。出来れば新入会員以外の会員、又は会員グループ（企業単位等）も各支部の中より随時紹介してはどうでしょうか？

また、支部の活動もまちづくり活動を中心に活発になってきましたが私たちの業務を考えると地球環境をテーマにした活動が必要不可欠ではないかと思っています。地域の山を守り、エネルギー消費の少ない建築物を造る、他にも取り組むべき課題は沢山あると思います。日々の業務の中で実践されている方も居られると思いますが、建築士会の活動テーマに是非取り入れていただきたいと思っています。



- 協和銀行  
もと豊和銀行本店のあったところ。当時としてはスマートな銀行建築でした。木造2階建内部吹抜きか。

1978.No.12より



## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

佐賀関支部 支部長 嵯峨 雄二

建築士会「おおいた」100号記念にあたり何か書けという事で、1号はいつ頃どんな事が書かれていたのかと思い、書庫から建築士「おおいた」1号を取り出し目を通した。

1975年2月15日発行（昭和50年）、会長は阿部清氏、表紙のデザインは岩瀬八州夫氏、士会の事務所は県庁の建築課内に置かれている。

青年部（会）の必要性、又会費200円/月から500円/月の値上げを検討している。会員数は1,100余名と記されている。

No.2は5月15日発行、大分県中部地震（4月21日2時35分）の概況報告が主な記事、さてその時期自分は何をしていたのか顧みる事にした。

年齢は24歳、就職して2年目東京のど真中の某本社ビル建築の現場で監督の立場として働いていた。

仕事の方は1年目は建築の用語等全く分からなくて、職人さんも東北の人が多く言葉も聞きづらく戸惑っていたが2年目ともなると徐々に慣れ仕事の方も面白くなった。

休日は1ヶ月に1日程度しか無かった様な気がする。昼は仕事、夜はマージャンか酒、睡眠は4～5時間程度の毎日。

しかしながら我が人生の中で充実していた時でもあった…事を思い出した。

ところで建築士会とのかかわりはというと、昭和54年無理矢理佐賀関に帰らされ（親の意向）佐賀関土建(株)に入社、同時に建築士会佐賀関支部に入った。

その年の夏、建築士会の県のソフトボール大会が日田で開催され当然私も出場、佐賀関支部は準優勝し、帰りに別府の料亭で祝賀会をしてもらった。

次の年は臼杵で県ソフトボール大会が開催、佐賀関支部は優勝、私は新婚の時でもあり妻も応援に来てくれた（今では考えられない…）この大会のもようは建築士会「おおいた」に書かれているのかなと調べてみると1980年9月No.22に記載され日時は昭和55年7月20日、臼杵水産高校で開催されていた。

当時の佐賀関支部会員は、日鉾佐賀関製錬所の設備投資の関係もあり忙しかった。

とにかく昼は仕事夜は青年部が中心として集まり佐賀関の町並み調査や町づくりの夢、計画等今思えば意外と真面目に支部活動をしていた。

レクリエーション活動もソフトボール大会、海岸での

焼肉大会、カラオケ、研修旅行等積極的に参加したり、催したりした。

ゴルフも士会を通じこの頃始めた。

先輩からは関の士会のルールは先輩を敬う事だ何事も年長者の言う事を聞けと教わり敬老の精神を叩き込まれた。

この寄稿のおかげで四半世紀前の事が懐かしく思い出されました。

建築士会「おおいた」1号に目を通した為ととりよめの無い事を書いてしまいましたがお容赦願います。

佐賀関支部会員も一般社会同様高齢化が進んでいます。

「伝統の団結力」にて活性化し今後の支部活動を行ないたいと思います。



## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

臼杵支部 支部長 三重野 元良

記念誌発行おめでとうございます。

臼杵支部は今回、建築士の集い大分大会で第2分科会を受けました。

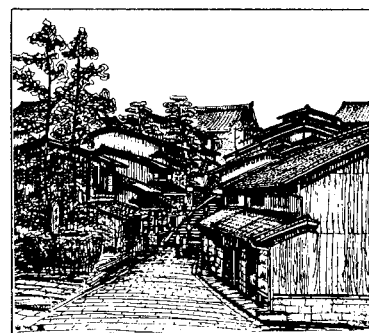
50歳代、40歳代の壮年部、そして今回中心となった30歳代の青年部など、各年代がその時のパッションや集いに何らかのかたちで、必ず参加し、分科会などを担当しています。

人材が豊富と言う訳ではありませんが、いつも何かの活動を継続中で、本会からの依頼をよく受けてはこなして行ってると思います。

各年代の青年部活動が、うまく引き継がれていると、その仲間がまとまって協力的で、それを通じての楽しみ方を得たようです。

何を行うにしても、成功裏には達成感の喜びと遊び心の追求を忘れてはならないようで、あの第2分科会の案内ビデオ制作はその最たる企画ではないでしょうか。

今後とも本会共に支部活動に楽しさと遊び心を忘れず頑張って行きますのでよろしく願いいたします。



修景図

1975.No.4より  
臼杵支部 高橋 薫





## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

津久見支部 支部長 濱野 一明

支部長として3年目を迎えています。

事務局作業にも追われ日々バタバタ状態で支部会員へご迷惑かけている支部長です。

正会員22人の小さな支部ですが、20年目を超えた行事を継続、定例役員会と年間行事に追われています。

本部行事にはいささか控えめな支部ですが結団力はふしぎにあるのです。

会員増加はあまり期待できない空気を感じている支部ですが、参加型支部となることを期待しているところです。

広報活動として5年前、一から始めたHPは全支部の一番のデータになり充実した形になったと思っています。

又、建築士大分への記事掲載にも積極的に参加をしています。

その反面、HP運営費補助金終了の難問をクリアできるか苦悩しています。

他支部と同格に動く事は出来ませんが、コツコツと支部活動を行い、市民や行政にアピールが出来る事を目指している建築士会津久見支部をご期待下さい。



西ノ御丸二重櫓 (復元図)

1986.No.47より



## 「建築士おおいた」100号への想い

佐伯支部 支部長 井上 一則

「建築士おおいた」が早いもので100号になると聞いて、正直びっくりしています。

発行当初は確か私が建築士会へ入会したばかりの頃で、何も判らない輩（今でも成長過程ですが）だったと記憶しています。

そしてその頃佐伯支部の編集委員補佐として、会員の取材や写真撮影等の役を命じられていました。

当時はまだ冊子ではなく、会報のようなものだったと思いますがはっきりとはしません、それほど遠い記憶です。

何にでも歴史があります。

このような冊子に残すことで、記憶だけでなく記録として残されていると、建築士会という会だけでなく、一建築士の一人としての移り変わりが、その記事と一緒に思い出されてくるのが判ります。

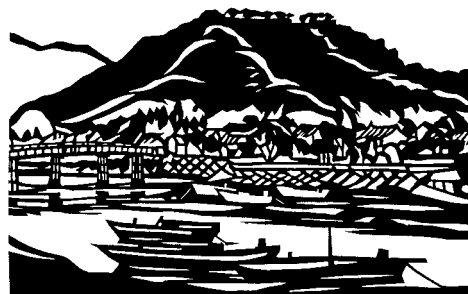
編集委員も補佐の時期を入れて三期、そして広報委員として三期だったと思いますが、何かとこの建築士大分には係わりが多かったように思います。

実際には編集作業、記事の収集は大変だし、各支部より出席も大変です。

でも、第〇〇号として発刊された時の喜びは経験上やはり大きいものがあります。産みの苦しみが大きいほど喜びも大きいものです。

予算の厳しい中、これからも150号、200号へと繋がっていけるように、試行錯誤しながらでも発行を続けてもらいたいと思っています。

その為にも中身のある内容を皆で考え、記事の投稿の協力をしていかなければいけないと肝に銘じ、お祝いを申し上げたいと思っています。



城山と城下町

1986.No.47より



## 「建築士おおいた」100号発刊 について

玖珠支部 支部長 穴井 和興

私も、建築士会に入会して30年以上になり、この間青年部や編集部活動にも参加して他支部の活動や交流の状況を「建築士おおいた」で知ることが出来ました。

編集は大変だろうなと思いつつ、毎号楽しみにして読んでいます。

最近はずっと新入会員の紹介欄を見るのが楽しみというか、新しい仲間、それも若い人が入ってくると嬉しい気持ちになります。

ただ、気になるのが裏表紙の「会員増強にご協力」の文字です。全県的に会員の減少が進んでいるみたいで、玖珠支部でも多分にもれず、会員の転出入と微増でなんとか現状維持をしている状況です。

過疎化や高齢化との関連が考えられますが、有資格者で非会員も多いのではと思います。

あの、忌まわしい姉齒事件により建築士の社会的責任の追及を建築士法の改正と罰則の強化という方法で行なわれた事は、我々の今までの社会的立場を振り返ってみれば相も変わらず代理屋の域を出ず、ただ法改正に振り回されてあたふたしている構図が見えてなりません。

今回の法改正を真摯に受け止め我々も襟を正してもっとプロフェッショナル化を旨とし、その指導的機関として建築士会が中心的役割を果し、建築士会員でなければ建築士としての活動が出来ない様なくみを構築する事で社会的信頼を得ると共に、会員の減少に歯止めが掛ると思います。

編集部の人たちは大変でしょうが我々の唯一の機関紙として、これから150号、200号へと楽しい紙面を期待しています。



## 「建築士おおいた」100号発刊 お祝いして

日田支部 支部長 藤原 秀樹

建築士会は、「建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するため会員の指導及び連絡に関する事務を行うこと」を目的として法的に設置された会です。そして、建築士会の定款では「会員の協力によって建築士の業務の進歩改善及び品位の保持向上を図り、建築文化の進展に寄与すること」定められています。

建築士を取り巻く状況は、姉齒建築士の構造計算書偽装を初めとする建築士の不祥事により、建築基準法、建築士法の改正と厳しいものがあります。

今こそ、建築士会がその目的を果たさなければならぬと思います。

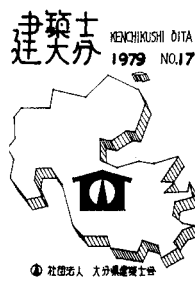
会員の知識、技術の向上はもちろんですが、建築士会の存在を広く地域の住民に認識していただくことが大切と考えます。そのために地域貢献活動をやらなければなりません。

建築物の質の向上を図り、安全、安心の快適な住まいを提供しなければなりません。

日田支部では、市民向けの住宅セミナー（6年前から、年一回程度）無料耐震相談、診断を実施しています。会員向けには、年一回の建築基準法の講習会を開催していますが、まだまだ充分ではありません。

よく会員であるメリットとは問われますが、会員自身が動かなければメリットは発揮されません。そのためには建築士会の情報を広く伝える必要が求められています。本会の情報誌「建築士おおいた」に大いに期待します。

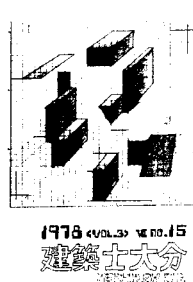
## “建築士大分” 表紙デザイン入選発表



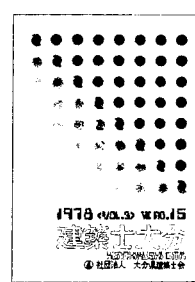
高田支部  
有元 保夫



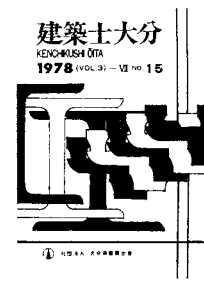
竹田支部  
工藤 正住



中津支部  
山村 増広



中津支部  
三雲 金吉



宇佐支部  
山本 辰雄

1979.No.17より





「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

三重支部 支部長 岡部 達巳

「建築士おおいた」100号記念誌発刊おめでとうございます。歴代の編集委員、広報委員の皆様にご敬意を表したいと思います。

私も、昭和の末期から平成の初期にかけて数年間、三重支部の編集委員をしていました。

一番の思い出は、竹田支部現支部長の川野さんと取り組んだ「支部特集」です。

取材や撮影、編集に校正と大変な作業でしたが面白くもありました。

また、住んでいるこの地域のことを学ぶこともでき、私にとって充実した時間を過ごせました。

今後も大分県建築士会の機関誌として、情報発信の場として、読んでたのしい「建築士おおいた」でありますよう期待します。



支部長の独り言

竹田支部 支部長 川野 和男

メッセージの依頼がやってきた。ちょうど記念誌発行の時に支部長をさせてもらっている幸せと、文を書くのがいやでいやでしょうがない不幸とが隣り合わせである。何を書いてよいやら？そうだと支部の状況をお話しよう。

しかし、簡単に100号というけれど大変なことです。毎号々編集委員のいろいろな思いで作りに上げてきたのだから。士会の歴史そのものだと思う。

当支部は、前支部長の松井氏が「街づくり事業やNPO法人「竹田まちなみ会」設立に取り組みられ今の士会活動の先駆けとなる活躍をされた。おかげで会員のチームワークが非常によく活動的である。昨年は、青年部長の志賀さんを中心として、雨と雷の中、手作りのサマーセミナーが大成功したと思っている。平成14年からは、橋爪氏が担当で竹田市のまちなみ環境整備事業のお手伝いとして無料相談と調査報告書作成を行っている。昨年より山浦氏の担当で竹田市浄化槽設計業務委託を事業とし、支部運営の一助になっている。

さて今年は、市町村合併（支部はもともと一つ）のおかげでひょっとするとドイツに（ドイツ村ではありません）入母屋の家を作りに行くかもしれない。7月中旬に視察団と会い話をさせていただいた。しかし言葉が直接通じない歯がゆさ…。通訳の人も技術的なことやその本質の話になると難しいようだ。

当支部も業界の閉塞感と過疎にはお手上げである。仲間が減る寂しさは、いかんともしがたい。仕事の合間を見つけて小さな事務局に行くと会員の誰かが来ている（もちろん編集委員の伊東さんも）。気の置ける仲間がいて佐藤さんが居て一息つける場所である。会員の笑い声や討論の音が聞こえる先輩から受け継いだこの場所がいつまでも元気であることを願っている。



2001年の自画像

短歌

大分支部 岡本 隆志  
(岡本一級建築士事務所)

- 青春を誇る姿かカーキ色のコートとブーツの女街行く
- 選挙カーに連りて行く雨の日をワイパーは拒否の形に動く
- 夜々画く篝火草の花形変り春の息吹きは加速に華やぐ
- 國乱れ和寇が夢をそりたる八幡船に似し平戸資料館
- 能率をあぐる機構か窓枠の狭窄強うる複眼のビル
- 冬の波追い重なりて岩に散るその潔さを切に羨む
- 夫々の欲望のせしエスカレーター巡りて客を売場に散らす
- 若き日は無政府主義にも惹かれしが末の建築士にて世過ぎなす吾
- 夢ひさぐ設計士とも夢なれば生業拙なくうつまどろみ
- 監理どう不信満ちたる所作疎み法の薄きを衝く図書を書く
- 監理どう事疎みき図書揃えば髪長き優の男訪うあらなくに
- 七人の敵に椅子の数似る小料理屋の女将に一人を愛す女の性思い居り

1977.No.10 より



## 「建築士おおいた」100号発刊をお祝いして

中津支部 支部長 梶田 康男

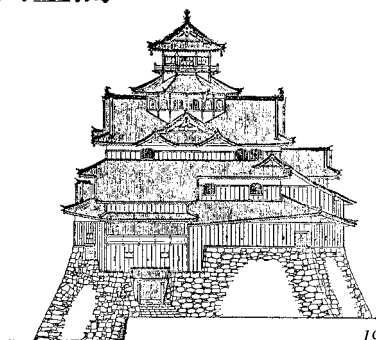
「建築士おおいた」創刊100号おめでとうございます。各支部の状況や、活動、建物、街並などいつも楽しく拝見しています。紙面を借りて中津支部（会員114名）の現況紹介をします。

平成16年にNPOを立ち上げ、街づくり活動を行っています。中津市も昨年より景観行政団体となり、中津市景観研究会を設立、積極的に活動が始まりました。その一環として我々士会会員は、7月1日に豊後街道（中津城より宇佐・大分方面への旧街道）の建物の聞き取り調査を行いました。明治、大正時代建設の建物がかかり多く残っています、西南の役のとき、その家の二階に志士たちが集まり出征したとの話等、それぞれの建物にまつわるいろんな話が聞けました。この街道筋、建物があるのは約1.2km、かなりの数の家屋がありましたが会員20名で対応しました。このことは、街道マップを作り皆さんに披露したいと思っています。最後になりましたが、編集委員の方、お疲れさまです。この冊子は、大分県の建築士の歴史になります、是非頑張って長く続けてください。



## 幻の安土城 天主閣

角田 幸夫



1975.No.1より



## 今、木造建築見直す時

宇佐支部 支部長 身深 文廣

建築基準法が6月20日より大幅に改正された矢先、7月16日に、中越沖地震（新潟柏崎沖）があり、多くの犠牲者と家屋に被害がありました。また、アスベスト・シックハウス・構造計算偽装問題など建築士を取巻く課題は山積している現在、建築士として我々は、人命と財産を守る使命を再認識させられる時でもあります。

日本は古来より木造建築が栄えてきました。その代表が法隆寺で607年、今から約1400年前聖徳太子が建てた建物です。14年前の1993年に世界遺産として日本で始めて登録され、人々の注目を集めています。どうして今も健在に建っているか？その理由は2000年以上経った木材を使用しているとも聞いています。100年経った材木は条件がそろえば100年・1000年経った材木は1000年持つとも言われています。木材の種類にもよりますが、針葉樹は伐採してから徐々に強度を増します。特にひのきは伐採後600年が強度的に最も強くなります。五重塔はそんなひのきを使い、木造建築の中の最高峰でもあります。五重塔を建てるのには20年から50年の歳月を要します。棟梁は2代から3代と受け継がれ5年か10年に1層ずつ上へ上へと建っていきます。宇佐市には九州最大の木造建築・東西別院があり、10年の歳月をかけて完成したと聞いております。

木の長所は、建築構造の中では一番値段が安く加工もし易い。一番軽くて強度もです。ライト兄弟が初めて空を飛んでから第一次世界大戦まで飛行機に使われていたこともありました。また、断熱効果や保温効果もあり鍋の蓋やフライパンの柄にも使われています。この他、肌触りの良さや殺菌作用もあり、木材に含まれるカロチンがダニやカビを退治してくれる。さらに人間の脳を落ち着かせる香りや、室内の湿度の調整までしてくれる。この他、地球環境を考えるとコンクリート・セメント・鉄・アルミニウムなどは製品を作るのに大量の石油や石炭などの資源を使います。二酸化炭素による地球温暖化の問題もあります。その点、木は山で生長するのに二酸化炭素を吸収し酸素を出します。地球に一番優しい建築材料です。

ここでもう一度、日本伝統の木造建築を再度見直す最後の時期と思われます。



# 会報100号に寄せて

大支部 前編集委員長 松崎 和夫

会報100号発刊おめでとうございます。

私が会報の編集に携わらせていただいております。そのことを少し述べさせていただきます。

会報は現在年に3号発刊されておりますが、平成3年から7年までの間、実は年に1号しか発刊していませんでした。その代わりに、「建築士会ニュース」として毎月、ホットな情報を掲載しておりました。本会は行事も多彩であります。毎月となりますと結構大変で、原稿探しに苦労したことが思い出されます。このニュースは私の手元にはNo.58号まであり、よく続いたものだと思いますが、内容としてはお知らせなどが多く、ニュース性はあるのですが、読み物としての面白さは希薄だったせいか、結局以前の会報に戻りました。

また、平成4年には、「40周年記念誌」を編集いたしました。本会が発足して以降、毎年の出来事と、その年に竣工した建築物を掲載いたしました。その時は、事務局が中島の弁天大橋の近くにありまして、私の自宅が大洲運動公園方面でしたので、帰途遅くまで事務局でよく編集作業を行ったものでした。

編集作業も様変わりしました。かつては、手書きで寄せていただいた原稿を、文字数をカウントして割付作業を行っておりました。タイトルの大きさや写真の

スペースの確保も必要でしたが、うまくページに収まらない場合もあり、時間を要した作業でした。今はIT化の中で、編集作業も原稿の受け取りも格段にスムーズになりました。ただし、原稿依頼とその催促(!?)は昔も今も同じエネルギーを要するのかもしれませんが。

編集をやっていてよかったことと言えば、建築にかかる正確な情報がいち早くキャッチできることでした。それと宮崎さんの主催する「舌検隊」に参加して、各支部のうまい物を賞味できたことでした。

一口に100号と言いましても、これだけ継続している事自体、すばらしいことだと思います。内容もだんだん充実されてきておりますし、ここまでやってこれたのも、現在の礎を築いていただきました諸先輩の会員、各支部で小まめにトピックスを取材していただきました編集委員の皆さん方のおかげだと思います。

現在、あらゆる情報がインターネットからダウンロード（収集）できます。議論のやり取りもメールを介して行えます。しかしながら、最近は逆に、画面上で文字を読むより、一度プリントアウトした紙データ読む傾向にあります。(年齢のせい!)そういったことから、冊子としての会報は、個人的にはいつまでも続けていただきたいと思っておりますし、大分の会報は記事が身近なせいか、アットホームな感じもいたします。

今後ますます充実した内容で、引き続き情報満載の会報となりますよう、ご期待申し上げます。

## 短歌六首

大支部 吉村素水

菅公の跡を尋ねて来て見れば

小雨にけふる 筑紫野の星

歌人の涙を誘う刈萱の

閑跡かなし 静かに雨ふる

琴瑟の相和すが如き 君と我

時の過ぐのも忘れ語りぬ

酒飲めば 涙となりてあふれ出り

苦しき思ひ なほも増すかな

我心の みにくさ知る夏空に

矢車の音 カラカラと鳴る日

思ふ事 言葉にならぬもどかしさ

今日も日暮れて 晩鐘のなる

(兼・阿部建築事務所々員)



100号記念

# 舌 検隊

番外編

## 初夏の北海道東を巡る

大分支部 元編集委員長 宮崎 敏信

6月26日(火)より7月2日(月)まで家内と北海道を旅行した。45年間のサラリーマン生活を完全卒業した“退職記念”として“1週間豪華?旅行”を執行した。また、会報100号記念に掲載されると言うことで誠にうれしく思っている。1976年No.7号に初投稿し、その後も、投稿を続ける内に、編集委員に推挙され、57号からは編集長も経験した。当時、編集会議の後、気の合う委員で必ず飲み会をしていた。これがあるから編集を永く続けられたと思っている。広報担当常務理事として2003年87号まで、編集に携わったことになる。



阿寒湖畔にて

初日26日は、早朝6時自宅出発し、羽田経由で女満別空港に昼過ぎ到着。レンタカーでサロマ湖へ。早速、ワッカネイチャーセンター・観光馬車等観光し、今夜のホテル“鶴雅リゾート”に投宿。サロマ湖畔を見ながら露天風呂でゆっくり入浴する。“普通の日”に皆は今頃仕事で忙しく働いているだろうと思いつつ、少し申し訳ない気持ちでお湯に浸かってのんびりするのはいい気分である。待望の夕食は、サロマ湖が一望されるレストランでバイキング料理だった。北海道の海の幸が美味しく料理されており、ビールと地酒で満腹となる。特にサロマ湖はホタテ貝養殖の発祥の地で記念碑がホテル脇に建っていた。

27日早朝に、サロマ100kmウルトラマラソン大会で有名なコースを走った。大分より90分早く夜が明ける。サロマ湖畔の直線道路で気持ち良い。5km程ジ



花ゆう香の夕食

ョグして切り上げる。誰にも会わず気温も18度と最適温だ。走った後の朝バイキングも美味しく頂く。

今日も、レンタカーでオシンコシンの滝や摩周湖・昼食は摩周湖湖畔のレストランで摩周湖ラーメンを食す。屈斜路湖等を観光レアレックス川湯ホテルへ。

ホテル近くに森林公園があり公園内の道路をジョグする。走った後は、風呂に入り夕食のビールと地酒をゆっくり賞味する。

28日も、早朝昨日の公園をジョグする。朝なのでシャワーを浴び、朝バイキング和食とする。

今日は、阿寒湖までゆっくりドライブ。阿寒湖遊覧船に乗り、マリモ観光をする。アイヌコタンの古式舞踊を鑑賞し湖畔を散策する。夕方湖畔ジョギングコースを2km程走る。今夜の宿はこの旅の最も高級のホテルで夕食も期待した。ゆっくり温泉に浸かり汗を流した後、家内と“阿寒の森ホテル花ゆう香”レストランへ。個室となっており落ち着く。お品書きに沿って料理が次々に運ばれてくる。熱い物は熱いうちにタイミングよく来て気分良し。ビール少々と日本酒二合、仕上げにワインを飲む。味・量・雰囲気も最高で満足出来た。



大沼公園にて



29日は雨になった。レンタカーのカーナビに助けられ無事釧路に到着。道路は直線が多く走り易い。

4日間使用したレンタカーを返却しホッとす。

釧路湿原をノロック列車で見物、雨で少々残念だった。

夕方、釧路港周辺をジョグする。波上場近くの炉端屋で大勢のお客さんが魚を焼いて楽しく飲んでいた。

“釧路全日空ホテル”のレストラン“雲海”で“浮き舟会席”を注文。5000円也。飲み代は勿論別料金。日本酒を注文したら鮭のヒレ酒があり飲んでみる。ふぐのヒレ酒はよく飲むがこれは初めてだ。香ばしくふぐと同じような味だった。



豪華なウニ・イクラ丼

30日、今日はJRで南千歳経由で大沼公園に向かう。南千歳駅で1時間の待ち合わせがあり、駅弁を買う。

“カニ釜飯弁当”でカニの身もたくさん入っており美味しかった。大沼まで7時間かかる。北海道は広いと痛感する。大沼湖の遊覧船に乗るが、50人乗りの観光船に我々二人だけで貸し切り状況だった。

夕方、大沼プリンスホテル周辺をジョグ、樹木が多く森林浴の気分で気持ちいい。露天風呂で汗を流し、バイキングをぱくつく。美味しくてつい食べ過ぎてしまう。



函館港にて

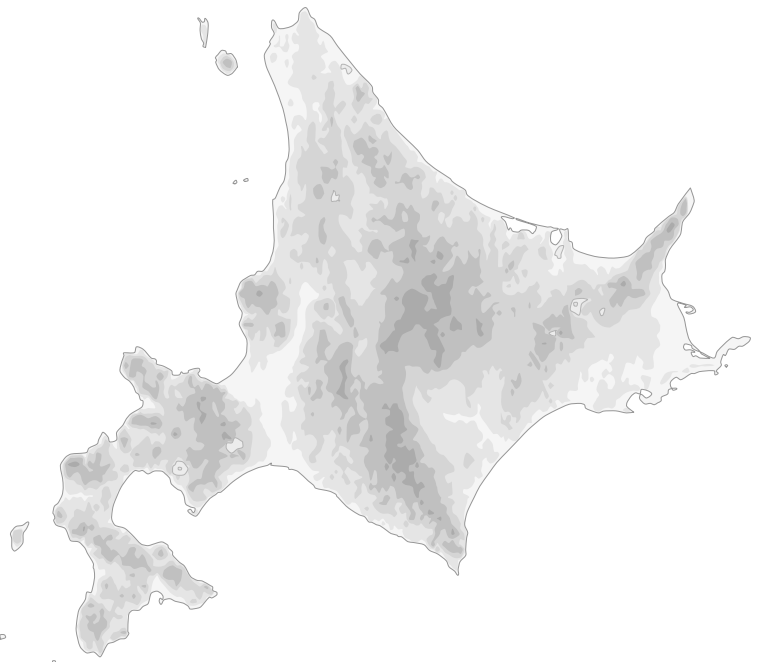
7月1日、朝、ホテル周辺ジョグ。大沼より函館へ。湯の川植物園・五稜郭を見物。昼食にお目当ての“ウニ・いくら丼”を食する。流石に美味しい。夕方函館港周辺をジョグする。夜、タクシーで函館山夜景見物。よく見え満足する。ライトアップの教会、建物等も見物。北海道最後の夜を満喫した。



函館夜景見物

朝も、函館港周辺をジョグする。青函連絡船の摩周湖が係留展示されていた。シャワーを浴びてバイキングで満腹になった身をバスで函館空港へ。最後の土産を買い込み、機中へ。初めてのジャンボ2階席で期待したが、狭く1階と変わらず残念だった。羽田経由で大分へ。1週間振りに自宅にかえり一息つく。各地で御馳走を満喫したが、やはり温かいご飯に、みそ汁、たくあんが一番美味しく感じる。

笠木編集委員長さんには長い間、ご苦労様と感謝したい。また、各編集委員さんには、今後も200号に向けて、頑張ってください。



# あなたのお住まい、安心ですか？

～障がい者のための住宅改造に対する助成制度等のご案内～



(例えば)

家の階段の昇り降り、もっと楽に移動したいわ…。

そこで

対応例1:「手すりの設置」



対応例2:「階段昇降機の設置」



**県・市町村では、障がいのある方のお住まいを改造する場合、費用の助成や用具の給付等を行っています！**

## 在宅重度障がい者住宅改造助成事業

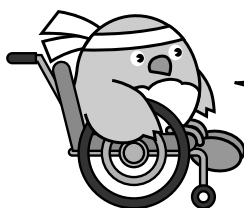
重度の障がいのある方の快適な生活環境を確保するために、「障がいのある方又はその障がいのある方と同居する方が住宅設備等を改造する費用」を助成する制度

例：キッチンのバリアフリー改修  
玄関のスロープ設置  
廊下・浴室の段差解消 など

## 日常生活用具の給付等事業

重度の障がいのある方(児童)に対し、「日常生活上の便宜を図るための用具(市町村が定める)」を給付又は貸与する制度

例：特殊便器  
火災警報機・自動消火器 など



いずれも、障がいの程度や世帯所得などの要件があります。また、他の制度(例:介護保険)との併用もあります。詳しくは、各市町村の障がい福祉担当課、又は、大分県障害福祉課(TEL:097-506-2727)まで、お気軽にお尋ねください。

※ 上の写真の「対応例」はいずれも、大分県社会福祉介護研修センター内「住宅改造モデル展示場」にあります。(TEL:097-552-6888)



## “建築士の集い”大分大会を終えて

青年部会長 後藤 憲二

九州ブロック“建築士の集い”大分大会の開催を6月23日(土)に無事に終わりました。

運営に携わって頂いた100名を超える士会会員の方々の皆様の多大なご協力と約190名の大分県建築士会をはじめとした九州各県よりの合計約500名の参加者により盛大に“建築士の集い”大分大会を開催することができました。ここで改めて運営に参加して頂いた方と大会に参加して頂いた方全員に厚く御礼申し上げます。

九州ブロックの大会としては、平成14年度に開催した九州パッション以来の開催でした。今年度より、集いとパッションの大会の違いを明快にして運営していく大会として初めての開催でした。ここ数年の集いとは趣向を変えるものや新しい試みも加えた運営を行いました。全体会では、建築士会の主要活動の一つである地域実践活動の各県発表を全体会で参加者全員の下行いました。参加者の皆さんの今後の士会活動の一助になればと思います。

懇親会では、参加者を事前に各テーブルに8人位とし同県で固まらないようにバラバラに配置してもらいました。せっかく九州全体から各県建築士会の皆さんが集まっているわけですから他県の建築士の方々との交流が図れるようにしました。参加者の方々からは、他県の人と交流が図れたと好評のようでした。

集いの第3分科会では、災害発生時の応急危険度判定士の活動についての講演と応急危険度判定に参加者による体験談公演を行うとともに応急危険度判定士のネットワークづくりについて“いざ災害が発生した時には建築士会として、又一建築士としてどのような行動ができるのかを平時から備えておくことが必要ではないか”との提言を行いました。

今年は、3月に発生した能登半島地震では、家屋の被害は家屋全半壊2,304棟、一部損壊まで含めると27,263棟という被害でした。7月に発生した新潟中越沖地震では、家屋の被害は家屋全半壊3,677棟、一部損壊まで含めると28,779棟という被害でした。これだけの家屋の調査をできるだけ短期間の内に行わなければならないことを考えると大変な労力が必要とな

りますし、できるだけ正確な情報に基づいての行動が作業の効率化につながるのではないのでしょうか。

今回、大分県建築士会からは、青年部の有志による災害地に先遣隊として参加できるネットワークを結成したことを報告するとともに、九州各県に同様な先遣隊のネットワークの拡大と相互リンクを進めていくことを提起しました。

全国の各都道府県建築士会の情報については、連合会のホームページ内にABA-NET（アバネット）という情報発信及び情報交換ができるメーリングリストがあります。青年部の建築士を中心に建築士会の会員が参加しています。ぜひ登録して頂き情報を共有して頂ければと思います。今回の新潟の地震に関しても情報のやり取りがされています。

建築士会連合会HPアドレス

<http://www.kenchikushikai.or.jp/>



九州ブロックでは、来年2月に佐賀県唐津市にて九州パッションを開催します。パッションは、“九州はひとつ”を合言葉に開催県の歴史や文化及び地産地消について知識を吸収し、親睦を図ることを目的としています。今回は、4分科会が予定されています。詳しくは、決定次第広報しますのでぜひ参加して下さい。





## 第一分科会を終えて

中津支部 青年部長 山村 増治

昨年、サマーセミナーin竹田の青年部長会議で、「次回の『建築士の集い おおいた大会』の第一分科会は県北（宇佐支部、国東支部、高田支部、中津支部、日田支部）の担当です。」と告げられ、前回『パッションinおおいた』を経験したことのある、宇佐支部の渡辺さんか、私のどちらかが第一分科会の責任者をする事になりました。渡辺さんは懇親会の司会に任命されたこともあり、私が責任者ということに。まあ何とかなるだろうとしか思っていませんでした。

当初、集いの準備委員会では、グループ討議を2時間近く行う予定でした。〈そんなに間を持たせられるのは、田原総一郎しかいねーだろう〉と心の中でつぶやきながら、なんて無茶なスケジュールなんだと思いました。頭に不安がよぎっていました。

年が明け平成19年になっても、なかなか第一分科会の内容が決められない。というか内容が見えてこない。あつという間に大会2ヶ月前になっていました。

その頃から、第一分科会の内容がやっと見えてきて、やるべきこと、決めるべきことが考えられるようになってきました。しかし、もう大会は目の前、その頃にはぶっつけ本番で行くしかないと腹をくくっていました。つまり〈内容がグループ討議なのでリーダーがしっかりしていれば失敗することはない。テーブルリーダーがんばれ。〉という気持ちでした。

大会当日、準備のための3時間に第一分科会のすべてが懸かっているといっても過言ではありませんでした。団体行動が嫌いな設計士達が、久しぶりに共同作業に頭を使った様な気がしました。なぜか司会をすることになった私は、前日に自分なりの原稿を作り本番に臨みました。結果は、多少の笑いが取れたので大満足です。大会が終わり、ホスト県になることの大変さと、運営の難しさを改めて感じました。最後に参加した県北地区の士会会員の皆さんお疲れ様でした。



第一分科会会場レイアウトに頭をひねるも、テーブル五角形案を後藤さんに一蹴される。



## 第二分科会を終えて

白杵支部 青年部長 板井 祐輔

去る、6月23日に「建築士の集い大分大会」が開催され、白杵支部では第2分科会を担当する事となりました。

「過去を見てみると、白杵支部は諸先輩方が様々な活動で成果を上げており、今回も白杵支部なら何とかかなるだろう」という見解のもと、白杵支部に白羽の矢が立ったわけです。実際、引き受けた私も「何とかかなるだろう」という楽観をもとに了承した次第ですし、いざとなれば経験豊富な「壮年部」の方々がいらっしゃるという強みもありました。

その後、県青年部長会議で議論を重ね『(仮)白杵における地域まちづくり』というテーマを頂き、支部に持ち帰りました。

早速、支部青年部で打合せを始め、白杵のまちづくりを知って頂くにはどうすればよいか、侃々諤々の議論が(お酒飲みながら)なされましたが、結局「散策」という形式で、参加した方の「目」で「足」で実際に体感していただく事となりました。

しかし、議論を進める程に、思った以上に問題が多いことを思い知らされました。

参加者が大型バス3台分「135名」と大人数である事。大分市内からの移動を考慮すると白杵市内の散策時間が80分程度と制約される事などなど。しかし、参加していただく以上満足して頂かないとやる意味がない！ということで諸問題をクリアーすべく更なる議論を重ねました。



結果、まず白杵市内に80分程度の環状散策コースを設定しました。そのコース内にバスの到着場所を3箇所設定し、同時刻に散策を開始、時計回りに散策を進めていく方法で折り合いをつけました。

またコース上に、参加者により詳しく白杵のまちづくりを知っていただく為の「解説ポイント」を設置しては？という意見が立ち上りました。

そこで、齊藤行雄さんによる「八町大路の景観整備事業」、神田高士さんによる「宗麟のまちづくり～中世のうすき～」、白杵支部会員による「まちづくりと士会活動の紹介」という3つの解説を行い、うすきのまちの黎明期から発展期・転換期を紹介する事になりました。この時点で大会本番まであと3ヶ月と迫って

いました。

しかし、方向と道筋が決まれば、あとは「前進あるのみ」でした。散策ガイド冊子の作成、士会活動紹介のパネル作成、白杵まちづくりの資料収集など、連日遅くまでの作業が行われました。

そして何よりも白杵支部青年部の我々が、故郷うすきについて勉強する事が必要とされました。

そこで、白杵支部南蛮文化研究会「コント・ソング」の登場です。コント・ソングはこれまで、うすきのまちづくりについて、研究に研究を重ね、その集大成として「うすき南蛮マップ」を作成しシンポジウムを開催した実績を持つ研究会です。

この研究会の協力のもと、様々な資料からうすきのまちづくりを学ぶ事ができました。

また、ひよんな事から「宗麟のまちづくり」のドキュメンタリーDVDを作成する事にもなりました。

この時点で大会本番1ヶ月前、散策資料の作成に追われ、一方でドキュメンタリーの撮影編集作業、まさに支部会員一丸となつての東奔西走の極みで準備が行われました。お陰で、何とか本番までには準備が整う事ができました。

大会本番では竹田・三重・津久見・佐伯の県南各支部の方々の頼もしい協力も頂き、時間通り何の問題もなく無事終える事ができました。そして、この分科会が、参加された方々の故郷のまちづくりの一助になったのではと思います。

後の懇親会でも、参加された県外士会会員の方々からお褒めのお言葉をいただき、ここに半年の苦勞が報われた気がしました。



最後に第2分科会の運営にご協力いただきました、県南各支部の皆様、コント・ソングの皆様、うすきの皆様に感謝いたします。

この経験を今後のまちづくりに役立てることをこれからの課題とし、まちづくりに積極的に携わって行きたいと思います。



また、「建築士の集い大分大会」の運営にご尽力された皆様、ご苦勞様でした。皆様と大会成功の喜びを共感できた事を嬉しく思います。大会成功！万歳！！



## 第三分科会を終えて 九州ブロック建築士会研究会 阪神淡路大震災体験発表

大分支部 清水 剛

去る6月23日、九州ブロック建築士会研究会「建築士の集い」大分大会において、震災建築物等の被災度判定の体験発表を行う機会を得た。

12年前、平成7年1月19日火曜日の早朝、地震により火災の様相がテレビに映し出されている衝撃をだれもが記憶していると思う。これが、阪神淡路大震災であった。

当時、大分市建築指導課に勤務していたこともあって、被害の拡大が確認される中、地震発生してから数日後には、調査団派遣の要請情報を把握していた。

あまりにも被害が甚大であったため、私自身も何か手伝えることがあればと思っていたため、調査団派遣要請時には、ためらいなく参加の意思表示を行っていた。



大分県からの派遣は、大分県・大分市併せて10名となり、地震が起きた2週間後の2月3日に大阪入り、現地で被災度判定の研修を受け、判定の実践を行った。この、被災度判定を通して、いつ起こるかわからない災害に対し、我々が日頃からどんな準備をしておかなくてはならないか、肌身に染みる思いをしたのであった。

災害発生時の応急危険度判定等のネットワークづくりの構築と広域実践活動へ向けた動きが、建築士会の中でも真剣に議論されたことに対し、我々が危機感持つことを第一歩とする十分な効果が得られたのではないかと感じている。

ともすると、災害は起こると誰しもが危機感を感じているが、年月が経つにつれ記憶はだんだんと薄れて

くるものである。

しかし、災害は必ずくり返されるものであり、自然の猛威を止めることは我々ではできないが、いつどんな災害が起こっても対応の取れる準備は少なくともすることができる。



この準備こそが、災害時の冷静、沈着、迅速な対応が可能になるのであって、実際に災害を体験したものだけでなく、現在の情報社会の中では、実際に災害を経験しなくてもシュミレーションすることが可能であり、我々にできることは多岐にわたると感じている。

建築士として、常に危機意識を持ち、いつ起こるかわからない災害の対応と、もし起こったときの我々の役割を常日頃から持ち続ける必要性を、「建築士の集い」大分大会において、再認識をさせてくれた。

応急危険度判定等のネットワークづくりを行い、早期に実践できる対応づくりを私は期待している。







## 地域実践活動報告を終えて

大支部 穂山 和大  
 (特定非営利活動法人まちづくりサポート隊 理事)



### ●地域実践活動報告に参加して

今回、ホスト県でもある大分県の代表として、きちんと滞りなく伝えたい、それだけを念頭に報告させていただきました。

事前準備におけるスライド作成等においては、多くの方の助言をいただき、無事報告を終えることができました。そして、望外の全国大会選出となり、この場をお借りして、大分建築士会の皆様へ御礼を申し上げます。

また、建築士会の方の大会にかける熱気や情熱の中で、改めて「みんなでやることの楽しさ」を体感することができました。

### ●全国大会での発表に向け

#### ①全国の密集市街地再生の仲間づくり

密集市街地再生の取り組みは、全国的に見ても、苦戦をしている地区が多い状況です。

私達大分支部のメンバーを中心とする特定非営利活動法人まちづくりサポート隊の活動も、まだまだ、手探りの段階です。

新潟県中越沖地震のような被害を防ぐためにも、我々と同じ問題意識を持つ建築、まちづくりの仲間にも多く出会い、現場の問題解決のアイデア、工夫例、苦労話をたくさん吸収して、大分及び九州に持ち帰ってきたいと考えています。

#### ②九州の代表として

密集市街地は、生活の積み重なり、地域固有の慣習、生活習慣など、近代の画一的な都市計画で失われたまちの良さや風景、言い換えれば、日本らしい原風景や隣近所づきあいの良さが色濃く残された場所と見るこ

ともできます。

表層の化粧のような街づくりではなく、地道かもしれないかもしれませんが、「今のまちの良さを継承しつつ血の通った地域に密着したまちづくりを九州では取り組んでいるのだ」とのメッセージを全国に伝えてきたいと考えております。

### ●こころざしを抱く

私は、まちづくりコンサルタントとして、約10年間、主に密集市街地の再生に取り組んでまいりました。高齢化、若者の転出、建替えの停滞、地域活力の低下など、密集市街地固有の問題を突破するため、大分支部の方々等の協力を得て、現在、NPOの活動を継続させていただいております。

今後も建築士会の方、その他専門家の方、地域の方、行政の方等の多くの方の支えを受けながら、粘り強く地域の問題を解決する「まち医者」のようなNPOのあり方を目指していきたいとのこころざしを、今回の参加を機に、改めて強く抱きました。

このような体験の場と機会を与えていただき本当にありがとうございました。





# 個人的図書紹介

vol.15

ハイバック・チェアのこと

大分支部 笠木 忠昭

いったいハイバック・チェアとは、実用的に腰掛けるための椅子なのでしょう、それとも置いておくだけの調度品なのでしょう。それだけ、椅子の中でハイバック・チェアほど、凛として美しい椅子はないと思います。そして近代デザインにおける傑作は、グラスゴー派のチャールズ・レニー・マッキントッシュ(1868～1928)の創作したラダー・バック・チェア(1902)だということは、誰の見解に於いても異論はないところだと思います。



磯崎新は、その椅子にあのモンローカーブを施し、自らのハイバック・チェア＝マリリン・モンロー・チェアを作りあげました。磯崎新の作る家具は殆どが天童製だと聞いたことがあります。そのモンロー・チェアは、アートプラザ1階のレストランにもあり、勿論それに腰掛けて食事をするのですが、壁に接するように置いても鑑賞に耐える得る作品となっています。(皆さん、是非アートプラザ1階のレストランでその椅子の座り心地をお試しになることをお奨めいたします。)

この二つの椅子に関してある日、磯崎新(1931～)のもとヘグラスゴーから妙な写真が届きます。

「ヒル・ハウスの二階にある主寝室のベッドの前に、二つのハイバック・チェアが向き合って置かれている。勿論ひとつはこの住宅の設計者マッキントッシュの梯子状に直線だけで構成されたもの。もうひとつは、私のデザインした通称マリリン・モンロー・チェア。これはハイバックの部分カーブしていることに特徴がある。(略)」

『栖すみか十二』 磯崎新 著 住まい学大系 100 住まいの図書館出版局発行 1999年12月1日一刷)

[註 ヒルハウス：マッキントッシュの設計により1902～03にかけて建設された、出版業者ウォルター・W・ブラッキー家の郊外住宅。このラダー・バック・チェアは、ヒルハウスのベッドルームのために

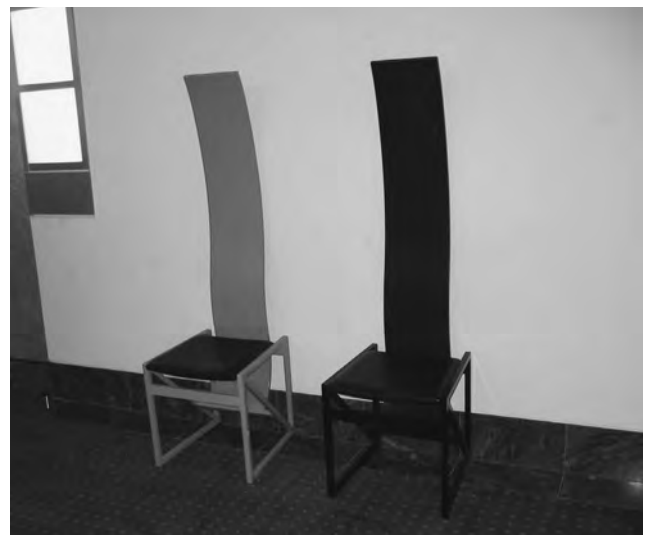
デザインされた。それでまたの名をヒルハウス1という。]

言うまでもなく、磯崎新のモンロー・チェアは、マッキントッシュのハイバック・チェアに敬意を捧げる意味で作成されています。そのベッド前の二脚のツーショットは、磯崎新にあらぬ妄想を抱かせるのです。

「ところが、この妙な、と形容してしまった写真、あのヴァン・アイクの手になるアルノルフィニ夫妻の新婚図(1434)にみえてしまったのです。新郎はマッキントッシュの直線的な梯子型、新婦はマリリン・モンロー曲線というわけですが、その背後にマッキントッシュの特有の紋様の彫り込んであるベッドが、妙になまめかしくみえる。木製の家具ですから、単純な日常生活の中にある幾何学的物体を積み上げて擬人化したキリコを想わせもする。ハイバックは人体の背後にぴったりくっつくので、それが人体を連想するのでしょうか。』(『栖すみか十二』より)

確かにハイバック・チェアにはそのような人格を感じを抱かせる雰囲気があります。

ところで、大分のスポーツ公園総合競技場、今の九石ドームの貴賓室には、磯崎新とライバル関係？にある黒川紀章(1934～)のハイバック・チェアが鎮座しております。この椅子が、前述の二つの椅子の仲に入り込むと、三角関係が生まれる恐れがあります。新婚家庭の安寧を乱すのでは、と皆さんは不安になりませんか。でも心配には及びません。黒川紀章のものは、ハイバック部分がブナ材の積層合板製で黒と赤の二色をセットで置いてあるのです。それは、まるで仲の良





いお雛様のように見えます。このハイバック・チェアは、江戸シリーズ・ハイバックチェア（1982）と名付けられ、雌雄としては、それで完結しているのです。だから間に割り込む恐れはないと思われます。

フランク・ロイド・ライトもハイバック・チェアを幾つか作っているようですが、「ライトの椅子はいずれもゴツくて持て

あましている。」（『栖すみか十二』より）そうなのです。ですからライトのものも入り込む余地はないようです。

ところで、別府の温泉街の一つ、鉄輪の鄙びた旅館の前はかなりごついハイバック・チェアを見つけました。入湯客の休憩のために置かれているようです。ハイバックの部分が後ろに少し傾いているためか、座り心地は悪くありませんでした。



一方江戸シリーズ・ハイバックチェアは、ハイバックの部分が前方にうつむき加減で、背中を押されるような感じがして、少し座り心地の悪さを感じました。モンロー・チェアは、腰の曲面が、私の姿勢の悪さを正すような、または、腰のつぼを押さえているかのような感じで、座り心地は悪くありません。

ラダー・バック・チェアには、まだ実物にお目にかかったこともないので何とも言えませんが、昭和女子大学の光藤俊夫教授は、この椅子について「この家具（＝椅子）の最大の条件を『掛け心地の良さ』と決めてかかっている人は、だからこの際、考え直す必要がある。もとよりそれは大事だ。だが掛け心地のみの選択では、せつかくのインテリアをだめにしてしまう。（略）『美しいもの』の後で考えてさほどの損もないと思う。」（『家具未来形』より）とことわりを述べ「こんな椅子が一脚、たとえば玄関にあったら。美しく、楽しく、ちょっと荷物を置いたり、ブーツをはいたりするにも役立つ。（略）」というふうはこの椅子をお奨めするのです。だから、マッキントッシュのラダー・バック・チェア

については、その座り心地はあまり期待できないようです。

ちなみにモンロー・チェアは、北九州市立美術館（1974）の版画のビューイング・ルームのためにデザインされたそうです。あの大理石の階段を上がり着いた両側にある真四角の箱の部屋でしょうか。

### おまけ



左：マッキントッシュのアーガイルハイバックチェア  
右：同じくイングラムハイバックチェア  
（マッキントッシュ、ライトのハイバックチェアは、Cassinaのカタログから転載しました。）

この駄文をメールで発信したと、次のような返信がきました。

「ご無沙汰しています。今永です。

ハイバックチェアの件、楽しく読ませていただきました。一家に一脚ヒルハウス…てな感じで紹介しています。今永 和浩」



### @ 100号記念読者プレゼント

虚無院君は、すこし踏み込んだ「私家版 個人的図書紹介」をメールで配信しています。以下のアドレスに申し込んだ方全員に、「私家版個人的図書紹介」を掲載した『造家倶楽部だより』なるものをだいたい月2回の割合でお届け致します。勿論、無料です。この機会を是非お見逃しなく。

kyomuin@camel.plala.or.jp



# MY WORK

- ★建物名称 野中邸
- ★建築場所 竹田市直入町
- ★建築主 野中 幸信
- ★設計者 基本設計：野中氏  
設計協力：(株)後藤建築設計事務所
- ★施工者 宮成工務店
- ★構造・面積 木造平屋建 110.0㎡
- ★用途等 住宅
- ★竣工 平成18年5月

## ★設計主旨

定年後、関東からUターンで直入町に戻られ、今までの忙しい毎日を反省し、今後は夫婦で穏やかに隠居生活をしたいとの思いが詰まった建物です。すっきりした外観はご主人の、古民家風の丸太梁や囲炉裏を始め内部空間は奥さんの昔からの夢をかなえたものです。また、広い土間及び式台を設け近所の方達が気軽に寄れるよう計画しています。

ここで夫婦仲良く充実した第二の人生が送られればと願っています。

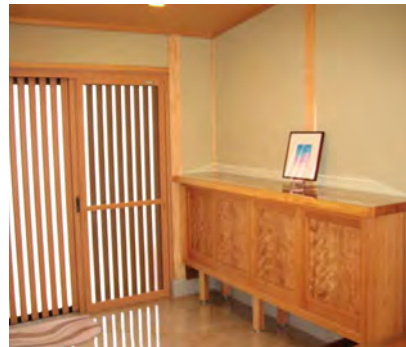


- ★建物名称 野依邸
- ★建築場所 築上郡吉富町今吉45-2
- ★建築主 野依 芳隆
- ★設計者 野依 法子
- ★施工者 八坂建設
- ★構造 木造平屋建て
- ★規模 床面積 169.74㎡
- ★用途等 専用住宅（自宅）



## ★設計主旨

太陽の恵みと風を感じる、ゆったりとした自分の居場所は好きな杉材で、日光が差し込む明るい居間（一角に掘りコタツ）。壁は聚楽・珪草土・クロスで住み分け、杉材で建具（障子・親子ドア・引違い戸）と下駄箱をしつらえ、またオール電化住宅とし、天井高2650mm、居間は25帖、ペアガラスと防音断熱雨戸で趣味のDVD鑑賞を大音響で楽しんでいます。



# MY WORK

- ★建物名称 平川邸
- ★建築場所 別府市鉄輪（銀座通り）
- ★建築主 平川浩隆
- ★設計者 糸永建築設計事務所 糸永正太郎
- ★施工者 株式会社浦松建設
- ★構造 鉄骨造 地下1階、地上2階建て
- ★規模 建築面積 93.93㎡
- ★床面積 183.10㎡
- ★用途等 専用住宅
- ★竣工 平成18年 7月



## ★設計主旨

施主は鉄輪で旅館を営み、高齢の父親の将来的な介護もできる住宅として旅館の近くに中古住宅を購入し、内部を改修して住もうと考えていた。その施主が東京出張で飛行機に乗った際、偶然目にした機内紙が改修計画の方向性を決定づけた。その機内誌に鉄輪温泉が紹介されており、載っていた鉄輪の写真に、購入した中古住宅が偶然に写っていた。施主はりつ然として、「町並みにそぐわない外観に非常に恥ずかしさをおぼえた」という。

そこで設計にあたっては、木造旅館が建ち並ぶ通りにあって、その連続性を生かすように駐車場には格子戸を用い、道路に面した敷地内には散策する人が座って休憩できるベンチを設けた。内部は段差をスロープで処理し、水周りの動線に考慮して車椅子の利用や介護に対応している。また、密集地である為、窓からの採光が期待できないので、トップライトから光が落ちてくるようにした。

一つの個人住宅でも、町並みの連続性の中で、大きな役割を果たせることを知って欲しいという施主の願いがこもった住宅である。

平成18年度別府市HOPE賞 最優秀作品

- ★建物名称 新鮮海市
- ★建築場所 臼杵市
- ★設計者 黒川哲郎+デザインリーグ
- ★施工者 現代建設(株)
- ★木工事 (有)足立建築事務所
- ★構造 木造平屋建て 555.84㎡
- ★用途 魚市場

## ★設計主旨

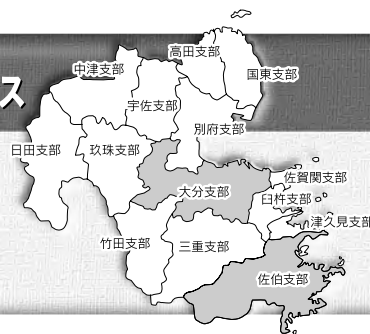
この建物は臼杵の地にあり、古くより市民の台所として親しまれていた。今回建替えにあたり、丸太を使用した大規模木造建築を多数手がけている東京芸術大学教授 黒川哲郎+デザインリーグ臼杵支店が設計担当、施工を現代建設(株)、木工事を(有)足立建築事務所が、墨付けより建て方 組上げ 仕上げまで執り行いました。丸太は大分県山国川流域森林組合より調達、角材等その他の材料は豊後木材市場より買入れました。今回の工法は丸太を土台より順次組上げて行く事により小屋組みを強固にするので木材の仕口や継ぎ手の精度が要求されます。故に職人の高度な技が要求され、すばらしい木造建築の技術が伝承されると思います。



# PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

## 会員紹介



(掲載については順不同です)

- ★生年月日 昭和52年4月14日
- ★勤務先 大分県土木建築部建築住宅課
- ★趣味 ドライブ、ゲーム

### ★将来の夢、モットー等

はじめまして、三ッ股と申します。

6月20日の建築基準法・建築士法等の改正に伴い、忙しい日々を送っており、運動不足等のためメタボリック気味で健康に不安を感じている次第です。

建築士の資格を取って4年程経ちますが、まだまだ、学ぶべきことが多いです。これから建築に関する多種多様な仕事をしていく中で、人のために役に立てる建築士になりたいと思います。



三ッ股 嗣朗 (大分支部)

- ★生年月日 昭和55年2月18日
- ★勤務先 佐伯市役所 建築住宅課
- ★趣味 フットサル・スノーボード

### ★将来の夢、モットー等

大学を卒業し、佐伯市役所に勤めて6年目をむかえました。

現在の仕事は、主に「建築物の確認申請や完了検査に関する業務」です。

ただ今、6月に改正された建築基準法に悩まされていますが、色々な図面審査や現場検査を通して、他では得がたい貴重な経験ができています。

これからも、周囲の方々に教わりながら努力していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。



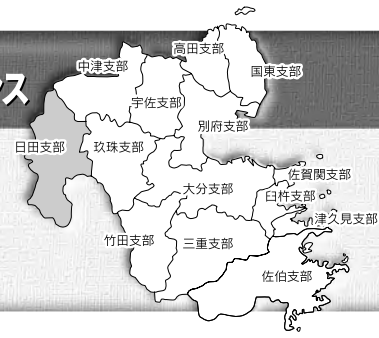
風戸 庸秀 (佐伯支部)



# PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

## 会員紹介



(掲載については順不同です)

- ★生年月日 昭和56年1月30日
- ★勤務先 (株)マサキ
- ★趣味 アウトドア、スノーボード

### ★将来の夢、モットー等

初めまして、この度建築士会日田支部に入会させていただきました、鬼武と申します。入会した経緯としましては、資格学校に通っている際に現日田支部青年部長の長尾氏との出会いがきっかけです。2年前に設計事務所を退所し、建築士試験に奮闘する月日を過ごしてきましたが、そこで感じたのが自分一人の努力と目標をもって頑張り会える仲間との出会いがより大きな力を生んでいく様を実感でき、入会してみて、その時の思いとダブって、建築士の方達と出会えること、再会できたこと。本当に良かったと考えます。実際、良くして頂いて、初めから雰囲気に入りやすかったです。

目標としましては、建築士として、すべき事を考

えつつ学んでいく事、学んできた事を実践で生かすように日々力をつけていく事と考えます。



鬼武 雅之 (日田支部)

- ★生年月日 昭和53年2月15日
- ★勤務先 (有)櫻木総合建築
- ★趣味 読書、映画鑑賞、写真

### ★将来の夢、モットー等

大工の父の元、幼い頃からずっと建築に携る仕事を見てきました。高校、大学は建築学科に進学。そして県内の住宅会社に就職。建築以外の道は全く考えられませんでした。

私の夢は住む人の幸せが見える家づくり。設計の分野から建築をサポートしていきたいと思います。昨年、一級建築士の資格を取得して事務所登録しました。先輩方からたくさんの事を学びとって自分の仕事に活かせたらと思います。まだまだスタートラインに立ったばかり。

初心を忘れず頑張ります+。.:°、(\*´▽`)ノ.:。+°



櫻木 弘三郎 (日田支部)



## 松岡小学校 親子折り紙建築教室

大分支部 芳山 智奈

夏休みの親子工作教室として、7月23日に松岡公民館で折り紙建築が開催されました。

子どもと保護者の方を合せ総勢60名程の賑やかな教室となりました。



(上) 高学年生に折り紙建築の極意を熱く指導!

(下) 山折…谷折…父も母も真剣でした。



(上) 見本を眺めながら「一番難しい折り紙を夏休み工作にするぞ〜♪」と思案する子どもたち。



(左上) 初めてカッターに触ったという低学年生も道具を上手く使いこなし、最後はカラフルな作品が盛り沢山。小学校のすぐ近くにある九州石油ドームの折り紙は「自分の知る建物」という親近感から大人気でした。中にはポストカードのような個性的なものもあり(右)、楽しみ方も柔軟性に富んでいて、見ている方も夢広がる折り紙建築教室でした。

松岡小学校の皆さんありがとうございました。



24年ぶりの研修旅行

## 「神々の国山陰地方」

佐賀関支部 渡邊 豊基

佐賀関支部では6月30日から7月1日にかけて24年ぶりとなる研修旅行を開催したので報告します。

### 【プロローグ】

午前7時大分駅をツアーバスが出発。それと同時に“プシュ”という音。そうまぎれもなく缶ビールのプルトップを開ける音です。

「エー朝の7時からビール」とお思いでしょうが、これが佐賀関支部の慣行なのです。…これにはバスガイドも呆れてしまい、「お客さん、旅はこれからなのですよ。旅程は長いので、程々におねがいしますね。」と当初はやさしく言っていました…。

一路、山陰を目指し10号線を北上。朝からの酒宴も1時間を過ぎたころから“生理現象”が発生し、「ガイドさんバスを止めちくりー。もう我慢できんわい」…ガイドさん曰く「だから先ほど注意したじゃないですか、もうこれつきりですからね。」と厳しい口調。停車予定を変更して急遽トイレ休憩をとることに…ほんと先が思いやられます。

バスは小倉から高速に乗り、ひたすら山陰を目指し突き進みます。支部会員もひたすら酒宴を続け、気がついたら最初の研修地「足立美術館」に到着です。

### 【足立美術館に野獣出没】

足立美術館は島根県安来市にあり、日本庭園と横山大観のコレクションで知られています。米国の日本庭



園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング」では4年連続1位に選定されています。

一行は美術館に入場し、ある会員の第一声が「おーりこりゃーすげー庭園じゃーのー」と野獣のような大声で叫びまわり警備員から注意される始末。…あまりにも下品な言動に恥ずかしさも頂点に達し、幹事から「もうおまえは連れてこんけんのー」と厳しく叱られていました。

庭園と建造物のバランスは素晴らしく、見る者を圧倒し、また所蔵品も素晴らしく、滅多には見ることでできない“横山大観”の大作を堪能しました。

### 【玉造温泉でいい湯だな〜】

夕刻にホテル「長生閣」にチェックイン。有名な「めのう風呂」に浸かり、旅の疲れ（バス宴会の疲れかつ）を癒し、いざっ宴会へ…しかしバスで飲み宴会で飲み…終宴するのはいつのことやら…。

### 【島根県立古代出雲歴史博物館】

研修2日目は“めのう工芸館”に立ち寄り出雲市にある島根県立古代出雲歴史博物館を見学。見学前日に“石見銀山”が大逆転により世界遺産登録されたことに伴い、多くの見学者が殺到しており入館時には長蛇の列。

石見銀山の企画展示と世界遺産登録されている写真展示もありラッキーな見学でした。



### 【出雲大社】

一行は今回の研修旅行の本命である“出雲大社”を参拝。運悪く雨が降り、ゆっくりと見学は出来なかったものの、“大社造り”を堪能し古代の神々を祭る聖域で信仰を深め、宮崎駿監督の“もののけ姫”の舞台でもある“たたら”と“神々の住む森”に思いを馳せ、木や鉄を使い建築行為をおこなう建築士としての研鑽を積み、24年ぶりとなる研修旅行を終えました。





## 津久見市の神社と寺院

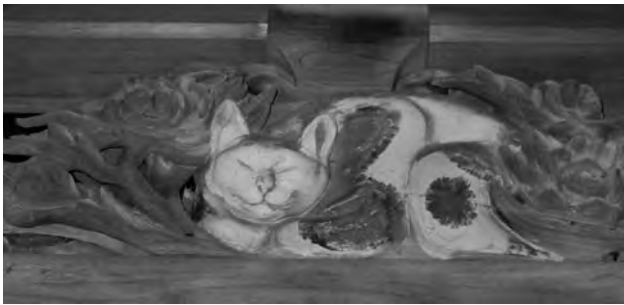
津久見支部 街並み調査会

この度、文化財調査として津久見の「神社と寺院」をテーマに以前から取材を進めていたものを途中で支部HPで公開を始めました。関係者を始め地元出身者の方々に故郷を思い出して頂ければと思います。津久見市は臼杵藩と佐伯藩の境に位置していた歴史があるので、調査物件として寺院19件・神社(天満社)37件を対象として歴史的資料や建造物の違があるのかとスタートしました。

始めて訪れる場所や地元の方々に助けられながら調査しています。大宰府天満宮と同じく「神牛」が奉納されている神社や日光東照宮「ねむり猫」類似物を発見。他にも「恵比寿様」や背丈ほどの石に刻まれた「足相」大理石の「おかめの面」など発見の数々。



津久見でもすばらしい宮大工の匠の技に触れることができましたが、どこも過疎化での伝統文化保存の難しさに苦悩していました。





他にも「伊能忠敬測量記念碑」もあり住職にお話しを聞かせて頂きました。

調査での注意点として、私自身の人相や行動が普通の方からは怪しげに映ります。賽銭泥棒と間違えられない様に駐在所に立ち寄ったり、地元の方に声をかけ話しを聞くことですが、市内から遠方になるほど年輩者の方は方言で話すので通訳が必要な時もありました。地元の方は声も大きく何かと人が集まり、話しがはずむと取材時間がたりなくなり再度訪れる事もありました。（「またきたんか」…と声をかけられたら軽く会釈して調査後に話しをする事ですね）

建物取材は境内でのマナーとお賽銭（小銭）です。これだけ、社寺参拝をすれば御利益があつたでしょうと言われますが、今だ実感していません。

思い出すと、願い事が「撮影許可」でした。

今度から個人的な願いも忘れないように心がけておこうと思います。

HPでは、防犯に考慮して特定の場所を紹介する事は控えました。（警察の指導）

未公開の物件は少しずつ追加していきますので、引き続きご覧下さい。

番外編として、一つ紹介します。（HP非公開）

勝手に命名した「東九州の青島」の無人島に恵比寿様が祭られている天満社があります。島へは引き潮の際現れる海道を通るしかありません。満潮時は鳥居の足元まで海に沈みます。取材は、天候と短時間の引き潮が条件でした。…写真撮影は半年かかりました。

（景観写真展の為に取材していました）



現在、島の付近にある黒い岩が「黒色チャート」と呼ばれ世界的に珍しく地球史上最大の生物大量絶滅を引き起こした2億5千年前の海洋無酸素事変の痕跡という事で某大学教授による調査が行なわれています。

（大分合同新聞に掲載されました）



「春は桜・夏は花火・秋は祭り」つくり散策へ



# 研修見学会

中津支部 富部 直

平成19年5月13日(日)に旧松本家住宅（現西日本工業倶楽部 北九州市戸畑区）及び、旧伊藤伝衛門邸（飯塚市）日帰り見学会を行いました。

まずは、国指定重要文化財の西日本工業倶楽部（旧松本家）へ行きました。

## 西日本工業倶楽部（旧松本邸）

明治専門学校（現在の九州工業大学）の創立者のひとりであったわが国産業界の重鎮、松本健次郎氏が明治41年から45年にかけて、自らの住宅と学校の迎賓館を兼ねて建てたものです。

戦後進駐米軍に接収され、昭和27年までは独身将校宿舎として、27年、北九州経済人の集まりである同倶楽部が設立され、以後倶楽部会館として利用されています。

この建物の、洋館は建築面積624.9㎡の木造2階建て辰野金吾博士の主宰する辰野片岡事務所が設計しました。19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパにおこった新芸術運動で、流れるような美しい曲線や円弧を特徴とする、アール・ヌーボー様式でデザインされていて松本邸の場合はベルギーのヴァン・デ・ベルデなどに近く幾何学的、抽象的な形態をとっています。当時の日本では導入の早い例であり、本格的なもので、建築技術の面からみてもきわめて水準が高いものであります。

建物は昭和47年、国の重要文化財に指定、現在年2回一般公開されておりますが、今回特別に見学させて頂きました。現在も結婚式や会食会などに使用されており、建物の手入れが行き届いており、当時の格式の高さと優美な姿がリアルに感じられるすばらしい建物でした。





## 旧伊藤伝右衛門邸

伊藤伝右衛門は、筑豊の炭鉱王の一人で、行商・船頭から身をおこし石炭採掘に関する独特の感と情で良質石炭の開発に成功。その後鉄道、銀行、電気事業等の他分野にも進出又教育にも力を入れ、学校も作り、衆議院議員にもなりおおくの功績を残し1947年（昭和22年）87歳で他界しました、まさに立志伝の人です。

伝右衛門が52歳のときに、大正天皇の従妹で歌人の、柳原燐子(白蓮) 27歳と、共に、再婚しました。

結納金は当時のお金で2万円でした。(今のお金で2億円)

本邸宅は、土地2,270坪 明治30代後半に建造された書院風の日本家屋であり、白蓮を迎えるにあたり、屋敷は増改築が施され、建坪は330坪の豪邸で、池を配した広大な回遊式庭園を持つ近代和風住宅です。博多と別府（二ヶ所）に「あかがね御殿」と呼ばれた別荘まで造ったことも有名なことです。

しかし、二人の結婚生活は10年で破綻しました。

東西に行きかう畳敷きの廊下は長さ47メートル。船底天井も凝った造りでした。

応接室には、イギリス製の素敵なステンドグラスがあり、布をほぐして塗り込んだ壁もあり、驚きました。また当時、九州で初めてという水洗式のトイレもありました。

白蓮の部屋は2階にあって、庭の眺めがすばらしく、部屋の入り口横に小さな窓があつて伝右衛門でも入るには白蓮に小窓からお伺いをたてなければいけなかったそうです。

以前の建築士会の研修見学会では、門の隙間からしか見ることが出来なかったのですが、飯塚市有形文化財（平成18年9月26指定）となり、今年から一般公開され、見学会当日も一般客でいっぱいでした。

和洋折衷の調和のとれた美しさ。当時先進的だった建築技術や、繊細で優美な装飾を随所に見ることができましたが、午前中に西日本工業倶楽部を見学した私達には、少し物足りないような気がしました。

以上、見学した2つの建物は、巨額な資金をもとに優れた感覚をもった建築家の設計、高い技術力を持った職人たちによって建築されていました。

建築に携わる者として、伝統的な感覚や優れた技術力を、少しでも多く学んで、次の世代に伝えなければと強く感じました。

※バスの中では、お酒も少し？入り、後ろのほうは大盛り上がりでした。



# 堀田温泉地区のまちづくりに関する提案の作成について

別府支部 籠田 真一郎

## 1. はじめに

平成17年度と平成18年度に別府市HOPE計画推進協議会からの依頼で、別府支部のまちづくり研究会が手伝いをした「堀田温泉地区のまちづくりに関する提案」の作成における取組みについて紹介します。

## 2. 堀田温泉地区について

堀田温泉地区は別府市の市街地の南西に位置し、車による別府の玄関口である別府インターチェンジに近接しています。昔から交通の要衝にあり、別府八湯の一つの温泉地として栄えてきましたが、以前あった旅館は現在なく、今後別府八湯の一つとして個性ある温泉地の形成が望まれている温泉街です。

堀田温泉地区においては、平成15年4月に市営堀田温泉がオープンし、現在別府市街地から別府インターへのアクセス道である富士見通鳥居線の整備が進んでいるなど、近年様相が変わってきている状況です。そういう中で、地元住民が魅力あるまちづくりを進めるために、「堀田温泉郷倶楽部」を平成16年に立ち上げ、月1回の堀田地区内の見所を地元住民がガイドをしながら周るまち歩きをはじめ様々な活動を行っています。

しかしながら、今後のまちづくりの方向性についてなかなか明確な指針となるものがないことや、幹線道路の整備に伴う乱開発の懸念などが問題となっていました。



堀田温泉地区の位置図

## 3. 提案の作成について

別府市HOPE計画推進協議会では、毎年別府市内のまちづくりに関する取組みを行ってきましたが、平成17年度から堀田温泉地区に注目し、取組みを

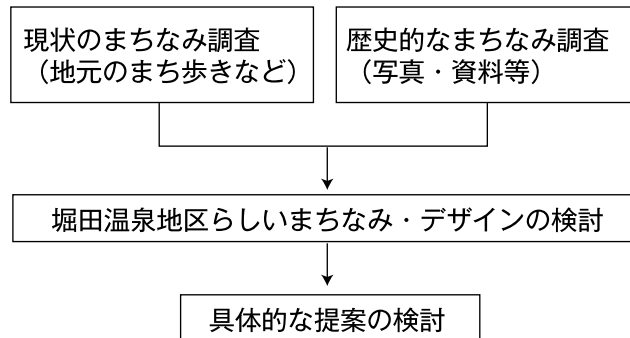
進めていくことにしました。そのHOPE計画推進協議会の依頼を受けて、別府支部のまちづくり研究会が堀田温泉地区のまちづくりに関する提案の作業を行うことになりました。

作業については、まちづくり研究会の中の7人の堀田地区メンバーを中心に、地元の堀田温泉郷倶楽部のメンバーやHOPE計画推進協議会の委員などとの意見交換や、現地調査を数回行いながら、提案書をまとめていきました。

今回の提案は、堀田地区の特性を把握し、堀田らしいデザインの検討など、今後のまちづくりのヒントとなる提案を行うことを基本として進めていきました。

作業は、現状のまちなみ調査、歴史的なまちなみの調査を行い、その中から堀田温泉地区らしいデザインについての検討を行ったうえで、実現可能と考えられる具体的な提案をしていくこととしました。

提案作成の経緯	
現地調査	4回
地元住民との意見交換	4回
HOPE計画推進協議会での報告等	4回
まちづくり研究会打合せ	10回



提案内容のフロー



## 地元住民との意見交換の様子

### 4. 提案の概要

以下に提案の主な内容について紹介します。

#### ① 現状のまちなみに関する調査

現地調査や意見交換を通して、堀田のビューポイントと今後の課題について整理しました。

- 別府八湯の一つとしての個性があり魅力的な温泉地づくり
- 道路整備（富士見通鳥居線）に伴う乱開発に対する懸念
- 魅力的な温泉地を育てるためのソフト施策の展開

#### ② 昔のまちなみに関する調査

現在残っている歴史的な施設等の整理を行い、昔の堀田温泉地区を偲ばせる風景の再現画を作成しました。



堀田温泉地区の再現画（画：新山俊則）

#### ③ 堀田らしいデザインキーワード（堀田らしいまちなみ・デザインの検討）

堀田温泉の魅力をつくっていくために堀田らしいデザインのキーワードとなるものをピックアップしました。

##### ○ 泉源のやぐら

現在の堀田温泉地区の景観のシンボリックなもので、デザインをまちづくりに活用していくことが有効と思われる。

##### ○ 堀田西温泉跡

昔の堀田温泉の中心的となる温泉であったが、現在は浴槽と土間等が残っているだけで、堀田西温泉の跡を活用してまちづくりに活かしていくことが望まれる。

##### ○ 豊かな自然

堀田温泉地区は棚田・防風林や白糸の瀧など、緑や水に恵まれた自然豊かな温泉地である。豊かな自然を活かし、共存していくことが魅力的な温泉地づくりにとって重要である。

#### ④ 具体的な提案

##### ○ 泉源のやぐらをモチーフにしたデザインの活用



案内板などに泉源のやぐらのデザインを活用し、堀田温泉の統一したデザイン形成を図ることを提案



紙でやぐらの形の灯籠を作成し、内部にろうそくを入れ、イベント時などに活用することを提案

##### ○ 堀田西温泉跡の活用法

- ・ 温泉と戯れるモニュメント

堀田西温泉跡の浴槽を残し、温泉のモニュメント的にすることにより、昔のシンボリック的存在であった堀田西温泉跡を活用することを提案

- ・ 周辺ルートの整備

堀田西温泉跡の周辺には、堀田の堤、旧旅館街に当時の面影を残すものが存在している。散策においてもこれらをまわるルートとなっており、堀田西温泉跡を中心にこれらをつなぐルート整備を提案

##### ○ 豊かな自然を活かしたデザイン



堀田らしい景観を維持していくために、まちなみの景観構成要素として影響が強い堀のデザインについて、石積みをベースに、植栽や花壇などを併設するものを提案

##### ○ ソフト施策について

- ・ 「堀田湯の里・湯けむり散策」の充実
- ・ 堀田の堤の再生 → 再現図の活用 など
- ・ スローフード、地産地消 ほか

### 5. おわりに

成果品について地元住民に説明をおこなったところ、今回の提案を活かしてまちづくりを進めていきたいという言葉いただきました。堀田温泉地区のまちづくりの推進については今後地元住民を中心に行政やわれわれ建築士会などの専門家が力を合わせて進めていくことが必要であり、今後のまちづくりを進めていくヒントとなる提案が出来たと思っています。別府支部まちづくり研究会としてもこれからも堀田のまちづくりの推進に関わっていければと考えています。



## 三重支部内での話題

三重支部 後藤 康仁

今回はいくつかの話題について触れたいと思います。

**先ず初めに市長とのふれあいミーティングについて。**

現在、豊後大野市では市長と市内の各種団体が懇談を行う機会を募っています。この制度はふれあいミーティングと称し、まちづくりについて広く建設的な意見を得ようとの考えから始まりました。当支部内においても以前から市町村合併後のまちづくりのありかたや地域活動の協力について意見が交わされ、行政との懇談の場を求めていました。こうした中、市の企画部及び岡部支部長の尽力により6/1 pm 7:00よりエトピアおおのにて市長と当支部との懇談会が行われました。



当日は、市長をはじめ企画部長、建設部長、秘書課長等が出席され、当支部からも会員十数名が参加しました。

懇談会の話題は街並みの形成についてや廃校舎のストック活用、若者の定住促進や高齢者の生活に対する市の支援、当支部の最近の活動報告など多岐に及びました。懇談は2時間以上に及びましたが、市政のトップに日頃暖めていたアイデアや要望を直接提案でき、また真摯に受け止めて頂き参加した会員たちにとって有意義な懇談会だったと思います。今後も市のまちづくりに職能団体としてどしどし提言を行って欲しいとの市からの要望もあり、今後の活動の広がりを深く考えさせられました。

**次に改正建築基準法の講習会について**

6/20の基準法改正を受け、7/11豊後大野土木事務所建設課による講習会が行われました。耐震偽装を受けての法改正ですが、改正内容が大きかったため

様々な情報が錯綜し、困惑された会員も多かったのではないのでしょうか？当地区でも悩まれた方が少なくなかった模様です。土木事務所もこうした状況に配慮し、地元業者を対象とした講習会を行う運びとなったようです。

法改正に伴う確認申請の取り扱いから構造計算の適判制度まで詳しく説明を行っていただきました。しかし、受講した会員の中には旧書式で確認申請の準備を進めていた者も少なからず存在し、法改正の周知徹底のむずかしさを感じました。また物件によっては審査期間の延長、手数料の増額などが生じるため、一般市民の方々の理解を得るためには会員個人の努力だけではなく士会としても周知への努力が必要ではとも感じました。

**最後に大分支部さん主催のおりがみ建築教室について。**

(青年部による見学&お手伝い)

前段にお伝えしたふれあいミーティングの中で我々会員も一般市民との交流の場をもっと増やそうとの意見が上がり、8月後半におりがみ建築教室にチャレンジする事になりました。しかし実物を作る又は指導する事には長けた我々ですが、子供達相手となると一抹の不安を感じるのも事実です。そこで実績豊富な大分支部さん主催の教室に参加させてもらい、スムーズな運営術を学ばせてもらおうと考えました。

幸い大分支部さんからは快諾を得られ、7/21のこども会での教室に当支部から4名参加しました。



当日は日頃持ち慣れていないカッターのせい、あやしいおっさん達のせい、緊張した面持ちだった子供達ですが、いざ作業が始まると講師の話に熱心に耳を傾け、立派な作品を作り上げていきました。

午前、午後の計2回の教室に参加でき、様々なアドバイスも頂き少し自信がついた我々ですが、本番の結果は次回報告したいと思います。お世話になった大分支部の竹宮さん、廣藤さんありがとうございました。



### ドイツ：温泉療養施設「ヴィタ・クラシカ」 の茶室(休憩所)建設 その1

竹田支部 伊東 政博

姉妹都市のバートクロツィンゲン市にある姉妹施設「ヴィタ・クラシカ」(御前湯と)より、施設内の日本庭園に茶室(休憩所)を建設するに当たって、竹田まちなみ会に協力をお願いしたいとお話が竹田市役所よりありました。

竹田市ではこのほど、ドイツで活躍するオペラ歌手西岡智子さんを交流大使に任命しました。同市は人材やワインなどを通じた文化交流を続けるドイツのバートクロツィンゲン市と友好姉妹都市。牧 剛尔竹田市長から「大使の証」を授与された西岡さんは「渡独して21年。直入町(現竹田市直入町)とかかわりを持って15年になる。今後も交流を深める役に立ちたい。」と話していました。



「竹田市直入町 御前湯」



「竹田市直入町の風景」

メーロート・バートクロツィンゲン市長からの親書を携えた西岡さん。大使としての初仕事がこの建設の橋渡し。同市が11月末に完成させる日本庭園の一角に設けるため日本で材料等全てそろえて船便で送る依頼を受けたといいます。竹田市も全面的に協力をする方針により、今回のお話が竹田まちなみ会にあった次第です。

それを受けまして、竹田まちなみ会では早速5月2日に役員会を開き事の経緯を話し合いました。当初、市の話では用途は静養のための部屋「休憩所・特に冬場」機能としてはマッサージ治療用ソファ(2台程度)・お茶会と言う事でした。構造・様式については木造平屋建て・茶室建築(数奇屋造り：典型的な日本様式)施工は日本で組み立て、輸送し、指導を受けながら現地で組み立てるとの事でした。規模、工事費についても大まかな金額提示もありました。役員全員役割分担を

して早速取りかかる事としました。7月11日～16日の予定でドイツより視察団が訪れ、12、13日と2日間にわたり打ち合わせを行ないました。その結果建物は、反りのある入母屋を希望としている事がわかりました。その後2度3度と役員会を開き打ち合わせを重ねて現在図面を作成し見積りをしております。次号では進捗状況をお知らせできればと思っています。



「工事打合せ状況」



「来日された方々 竹田市加藤様邸の茶室にて」

姉妹都市のバートクロツィンゲン市について少し書きますとドイツ、フランス、スイスの3国が出会うドイツ南部バーデンヴルテンヴルグ州のバートクロツィンゲンはライン河上流に位置し、「黒い森」のすそ野にあり、穏やかな気候と、郷土料理と心臓病の治療で有名な温泉地(源泉は3つ、強炭酸泉、温度40℃)人口1.3万人の小さな町ながら、年間の宿泊者数は約100万泊で、主に国内からの湯治客で賑わっています。



「ヴィタ・クラシカの屋外浴場」

# おおいだ建物発掘隊

## 竹田市編

久住酒蔵物語 竹田櫻

### 竹田支部 伊東 政博

竹田市久住町に、日本酒“竹田櫻”を醸造していた小早川酒造(株)があります。現在は醸造していませんが、ここは江戸時代第7代将軍徳川家継の時代に、志賀家が創業し、約270年の歳月を経ています。この志賀家の屋号は“松賀屋”と言われ、当初は別の日本酒を醸造していましたが、昭和6年に小早川酒造(株)が竹田市内よりこの地に来て、日本酒“竹田櫻”を醸造するようになりました。建物の年代は詳しくわかりませんが、和水库、翹室、仕込み庫、などは、江戸後期～明治時代に建てられたものではないかと思われます。この和水库は現在酒蔵道具などの資料館として使用され、翹室、仕込み庫は、昔のままの状態で資料館として使用され、仕込み庫の絞り機の部分は吹き抜けとなって圧倒されるものがあります。又酒蔵の構造上、倉の内部の温度は1年中24.0～24.5℃に保つように作られており、夏場はひんやり感を体験できます。この仕込み庫の1Fの牛木は現在約25mくらいですが、腐れて落ちた部分を加えると、元々は35m～40mくらいあったと思われます。



「仕込み庫の現在の様子」



又この敷地には別荘と呼ばれる建物があり、志賀家や小早川家の方々が別荘として使われたり、来賓を迎えるのに使っていました。この別荘の本門は明治27年築造ですが、別荘本体は明治後期～大正初期と思わ

れます。大工の棟梁は久住町の河野鶴亀様ですが、この別荘は志賀家の方が、別府の旧赤銅御殿をモデルに建てられたといわれています。書院造りのこの建物は、主な材料は地母で、廊下の床は、ケヤキの柾目板で厚さが1寸ありチキリ工法となっています。又床柱は台湾タガヤサンを柿の木に見立てて、棟梁が細工したものと見られています。又お風呂、トイレに行く廊下の床には、当時の陶器タイルを貼っています。



「別荘と呼ばれる建物」



「床はケヤキの正目板です  
継ぎ目無し!!」



ここの日本庭園は広さが約500㎡位あり、ゆっくりした空間を楽しめます。又ここは現在1日1組限定の宿として使用されています。



この他小早川家の方がこの地久住に来て、味噌、醤油を醸造していた隣地、隣家を購入しましたが、ここは当時“竹田櫻”の販売所兼自宅として使用していました。現在では、和食処“竹田櫻”として使用しています。ここの床の間の天袋は田能村竹田の弟子の帆足様の書いた天袋となっています。（別荘の2Fの天袋は、同じ田能村竹田の弟子“九峰”様の書いたものですが、別に保管させていただいています）この建物は柱、敷居にケヤキをふんだんに使っており、ケヤキ屋敷とも呼ばれていたといわれています。建てられた年代は不明ですが、明治～大正と思われます。中庭には庭園があり、この庭園は石を中心とした枯山水となっています。

久住町においでの際は是非お立ち寄り下さい。さわやかな風とともに従業員さんの心あるおもてなしがお待ちしておりますよ。



「和食処 竹田櫻」



「居酒屋風お食事処」



「和食処 竹田櫻 枯山水の庭」



「竹田櫻入口内部の様子」

小早川家の方が竹田市内よりこの地久住町に来たのには訳があり、（ここの敷地は全体で約1,600坪あります）この敷地内で湧く湧水の方がより日本酒を醸造するのに合う水ということでした。この湧水は創業当時より現在もこんこんと湧き続け、皆様の水汲み場としても使われ、約270年の歴史を水の味の中でも楽しむことが出来ると思います。



「和食処 竹田櫻 外観」

今ではここ和食処“竹田櫻”は落ち着いた雰囲気の中でゆっくりとした食事をお楽しみいただけます。尚、夜は居酒屋メニューもおいてあり1年を通してご利用いただけます。また、現在1日1組限定の宿も予約してご利用下さい。（お忍びでもご予約可能）この“別荘”に泊まって歴史・時代を感じてください。竹田市

ご協力 和食処 竹田櫻  
竹田市久住6426  
TEL0974-64-3830  
代表取締役 工藤榮一(竹田支部会員)

# 女性部会の page

## 平成19年度 第1回女性建築士住宅セミナー報告

開催日 平成19年6月17日(日)  
主催 大分県農林水産部林産振興室、  
(社)大分県建築士会女性部  
中津支部女性部

### 〈スケジュール〉

- 9:00~9:30 大分駅時計台前集合・受付
- 9:45~ 出発(バス移動)~九重インター  
車内にて木に関する話等
- 10:40~ 大分方式乾燥材の製材所見学  
(玖珠郡 株式会社ヤマサ)
- 12:00 深耶馬溪 仙景望(昼食)  
一目八景散策
- 13:30 深耶馬溪出発
- 14:00~ ①完成木造住宅見学(中津市)  
②木造住宅施工現場見学
- 15:30~17:00 バス移動 ~大分駅着後、解散

大分支部 宇野 三知代

平成19年6月17日(日)曇りのち晴れ。

9:45に大分駅をバスで、予定の時刻より少し遅れて出発しました。車中にて、まず建築士会女性部会長阿南さんよりあいさつ、大分県農林水産部林産振興室職員の方から大分方式乾燥材活用住宅促進事業についての説明、木についての質疑応答と、十分な時間ではありませんでしたが、最初の見学地に到着するまでを過ごしました。



まず、大分方式乾燥材生産工場である、(株)ヤマサを見学です。大分方式乾燥材とは、大分県林業試験場で開発した乾燥法で、杉材を3日以内の短時間で高温乾燥機による前処理、3ヶ月以上の天然乾燥を組み合わせた方法で生産した木材です。この方式の乾燥材は割れが少なく、色も良く、杉本来の香りと肌触りが失われていない高品質な木材となるということです。その上、高温処理時間が短いので、燃料の使用量を抑えることができ、地球環境に優しいと、まさに理想的な乾燥材といえる訳です。



ここでは、大分方式乾燥材の特徴や生産の流れを、実際に木と機械を見ながら、説明を頂きました。一般参加者からは、積極的に質疑があがり、大分方式乾燥材を理解された様子でした。

12:00深耶馬溪にて昼食、その後一目八景を散策。



次は、大分方式乾燥材を使用した3棟の木造住宅の見学です。初めに、中津市のY邸。居住中ということで、外観からの見学となりました。この住宅は、家1棟分の大分方式乾燥柱材を、協定を結んだ工務店に提供する「県産木材補助金制度」を利用した物件です。お子さんが、アトピー等のアレルギーがあるということで、内装において、天井は杉板貼、壁には漆喰塗りと自然素材を使用していました。また、施主自身が建築士ということで、コスト面や設計・施工段階での工夫など、いろいろなエピソードを交えながら説明を頂きました。



続いて、中津市のM邸（延べ151.95㎡ 2階建て）、宇佐市のN邸（延べ206.11㎡ 2階建て）で、双方とも施工中の現場見学です。M邸では、大分方式乾燥材の構造材を化粧で現し、空間を広くとる工夫の様子を見たり、N邸では、柱材1本1本に品質管理に基づく厳正な検査の証である刻印を確認したりと。

また、施工する側からも、大分方式乾燥材の品質の良さを実感するとの感想を頂きました。



各現場や帰りの車中でも質疑応答があり、満足されたのではないかと思います。

今回は一般参加者が8名（うち小人1名）と少ない人数ではありましたが、生産工場・施主・施工者の方々のご協力により、充実した内容の見学会となったと思います。



## 建築士の集い「大分大会」の懇親会にて 女性部による和太鼓演奏披露報告

《和太鼓にいたるまで》

阿南 春美

去年の鹿児島パッションの帰り道、次回大分で行なわれる「建築士の集い」のレセプションは、ぜひ自分達の手で何かしたいなぁと話していたところ、和太鼓をしようということになり、その場に居合わせた、前青年部長の渡辺さんに相談したところ、佐賀関の早吸太鼓の方をお願いをしてあげようということになり、それから若い女性部に声を掛け、5人の有志が集まりました。（当初は7人でした）

佐賀関まで往復約2時間、練習時間2時間、週1回のペースで1年間の長い練習が始まりました。

しかし、仕事をしながらのことゆえ、集まる時間もばらばら、また全員集まるのもままならずのなかでの練習です。一度もバチを持ったことのない女性達にとって、30分の演奏は並たいていのことではありませんでした。1年間と言っても、8月、12月、1月は練習がほとんどできず、本番まで合計約78時間しかありませんでした。（この1年の間に結婚した人、妊娠した人と、おめでたいことがありました）。

しかしそこは大分女性の力、本番当日は素晴らしい演奏ができました。5人の女性部の方々に感謝します。

自分達の手で造りあげた集いの会は、大成功だったと思います。また、この太鼓を通じて色んなことを学べたと思います。この機会を与えて下さった青年部の方、教えて頂いた早吸太鼓の方々に感謝致します。



▲「椎根津彦神社大祭」で演奏させて頂きました



▲練習はこのような様子です

《演奏者の皆さんからのコメント》

＜阿南未来さん＞

皆さん、6月の「建築士の集い」でのオープニングの太鼓は楽しんで頂けたでしょうか？私はとても悔やんでいます。1年以上も練習してきたのに、緊張のあまりに本番で、出だしを間違えたからです。やり直せるものならもう一度あの場をやり直したいです。

とはいえ、太鼓の練習はリズムが難しく大変だった上、5人全員が揃うことも数少なく、不安が残る部分もありましたが、皆で一緒にひとつのものを創りあげようと協力して頑張ってきた分、終わった後は満足感でいっぱいでした。ビールもとてもおいしかったです。

この度、このような機会を与えて頂いた事、お忙しい中ご指導頂いた早吸太鼓の方々や応援・サポートして下さいの皆様には、感謝の気持ちで一杯です。本当に、ありがとうございました。



▲女性部 和太鼓演奏者の5人です

### <川村彩希江さん>

なんだか面白そうだな。軽い気持ちから始めることにしたのですが、思うように音が出ないし、リズムもなかなか頭に入らない。不安な気持ちが押し寄せてきては、みんなとの練習でのひとときや、大分と佐賀関を往復するドライブ、極めつけは、阿南女性部会長の、空腹を120%満たしてくれる手料理をご馳走になったり等、楽しい気持ちのほうが大きかったので、毎週月曜日の練習が待ち遠しくもありました。

お忙しい中、時間を割いてご指導して下さいった早吸太鼓の方々や、和太鼓メンバーをサポートして下さいった方々には本当に感謝していますし、メンバーの一員として参加出来たことを心から光榮に思います。

少し前からタイコピクスが健康にいいと注目されているようなので、興味がある方は始めてみませんか。

### <後藤千鶴さん>

初めは、五人全員で大太鼓を叩く予定で練習をしていましたが、全体バランスを考慮して、大太鼓は三人で叩くことになりました。大太鼓の人数が減って、一人で叩く部分が増えて、各自の担当するパートに責任がずっしりと重くなり、一人だけ間違えたらどうしよう…と不安になったこともありましたが、本番では今までの練習の成果を出さなくてはという気持ちと、大分支部の代表としてオープニングを成功させるためにも思い切り叩こう！！と精一杯演奏をしました。

今回、大変な事も多くありましたが、和太鼓を演奏するという貴重な経験ができました。この機会を与えて下さった事、また忙しい中教えて下さった早吸太鼓の皆様、本当にありがとうございました。



▲建築士の集い、懇親会にて…いよいよ本番です

### <寺崎文美さん>

太鼓を叩くきっかけになったのは、『あやも太鼓のメンバーやけん』という友達の一言でした。初顔合わせは佐賀関…。佐賀関なんて聞いてない！全てがちゃんぶんかんぶんて始まった、ブロック大会への道のり。ホントに沢山の出来事がありました。普段はなかなか会えない友達と週に一度は会ったり、みんな責任感や意思が強いので、ぶつかったりもしました。筋肉痛で腕が上がらなかつたり、パソコンが打てなかつたり。最後に、本番で全員がひとつになった気がしました。大会が終わった次の月曜日、もう佐賀関に行かなくていいんだ…と、少し寂しい気持ちになりました。長い道のりでしたが、とてもよい思い出になりました。

教えて下さった早吸太鼓さんにも、感謝しています。ありがとうございました。

### 《編集者コメント》

見させていただきだけの立場で、こうしてコメントするのは申し訳ないくらい、その演奏からは、本当に沢山の思いが伝わってきて、演奏後には、思わず熱いものが込み上げてきました。また、初めて間近で見る和太鼓の演奏は、大迫力の中に繊細な部分を持ち合わせており、背筋がピンと伸びる思いでした。

皆さん色々な境遇の中で、本当に大変だったと思います。そんな中、本番では沢山の方々から拍手を浴び、有終の美を飾る事ができたことに、同じ女性として、勇気や力を頂いたのと共に、心から誇りに思います。

和太鼓演奏者の皆さん、お忙しい中の練習・大観衆の前での本番、大変お疲れ様でした。

\*演奏者には、あと一方、木田理沙さんがいらっしやいますが、出産の為入院中で、コメントを頂くことが難しいので、今回はコメントを控えさせていただきます。お体を大切に、無事に出産される事を祈っています。



▲迫力満点、和太鼓演奏中です

## 全国女性建築士連絡協議会「青森大会」報告

テーマ 「地域と共生する住環境づくり」  
～自然とこだまする～  
日時 平成19年  
7月13日(金) 12:00～20:00  
7月14日(土) 9:00～12:30  
場所 青森市文化会館会議室

大支部 中道 了子

本州最北端『青森』の開催ということで、阿南女性部会長と私の2人だけの参加となりました。大分～東京～青森と乗り換えて行ったのですが、東京着が遅れ、乗り換え時間がなく、乗務員さんに相談したところ、青森行き搭乗口まで車を出してくれ、ほどなく間に合い無事青森に着きました。

13日は全国部会長会議、開会式、そして「世界遺産白神山地とまたぎ」と題し、目屋マタギ・白神マタギ舎代表 工藤光治氏による基調講演がありました。

「マタギは動物が憎いから殺すわけではない。その命を貰わなければ人は生きていけない。憎くもない動物を殺すのだから、鬼になって苦しめることなく一気に殺さない。動物を殺すたびに鬼になる、又鬼になるから又鬼(マタギ)だ。」と、マタギとして初めて山に入る時、父親から言われたそうです。

自然と向き合い闘うマタギ。しかし、2004年に世界遺産に指定され、熊が出来なくなり、長年のマタギの歴史に終止符が打たれ、工藤さんらマタギたちは「エコツアー」を通して山の慣わしを人々に伝えようとしています。



パネルディスカッションでは、青森県の林業の事、国内で初めてタラソセラピー「し～うらんど海遊館」を作った話、豪雪地帯青森で暮らす人々の生活や活動報告、田舎暮らしをおもしろがろうとしている町おこしゲリラの話と、「北のまちとくらし」をテーマに、4人のパネリストの方々のお話がありました。そして懇親会。

14日は8つの分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿って討論会が開かれました。

私は昨年同様「集まって住む」の分科会。

北海道建築士会の方による高齢者共同住宅をテーマにした活動報告があり、意見交換が行われました。

終の棲家、老後の住まい・・・誰にでも訪れるこの課題に建築士の役割を考えさせられました。

せっかく青森に来たのだからということで青木淳氏設計の青森県立美術館を見学。地下2階、地上2階からなるスペースで、土の壁と白い壁が表情豊かな展示空間を生み出して、建築は見応え十分。またコレクションも、棟方志功・寺山修司・奈良美智など個性豊かな作家の作品を楽しめました。もし青森へ行くことがあったら是非行ってみてください。



今回、台風の影響で帰りは東京で足止めと大変な目に遭いましたが、こんな機会でないとは行くことはない青森。女性の皆さん、来年は東京での開催です。是非参加してみたいかがですか。



シリーズ 登録文化財 No.21

# 「別府市児童館」(旧別府市郵便電話局電話分室)



正面ファサード



側面



中庭側

別府支部 岡田宏基

名称：別府市児童館

(旧別府市郵便電話局電話分室)

所在地：大分県別府市末広町1番3号

建築年代：1928年(昭和3年)

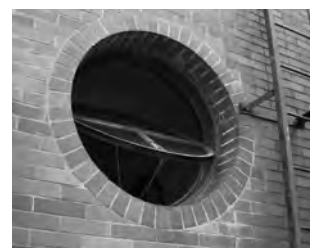
登録：平成10年7月3日

構造：鉄筋コンクリート造2階建

設計：吉田鉄郎



内部ホール  
児童館として改装されている



丸窓  
外壁はイタリア製レンガタイル

通信省建築の代表的存在である吉田鉄郎の九州における数少ない作品のひとつ。同時期に竣工した旧別府市公会堂も吉田の設計であり、アーチや迫り出しのバルコニーなどに共通性がある。縦樋上部にある半円の受枿がユニークで、縦長の窓と共に壁面にリズム感を与えている。

昭和3年に別府市郵便電話局電話分室として建設。昭和40年に別府市が買収した後は、庁舎別館等用途変更を繰り返し、平成8年から児童館として利用されている。



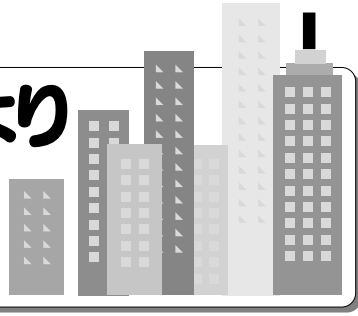
内部階段



縦樋と受枿

# 行政だより

大分県 建築住宅課



## 建築基準法の改正について

建築物の安全性の確保を図るための建築基準法の一部を改正する法律が平成19年6月20日に施行されております。これに伴い、建築確認申請等の手続きが大幅に変更されておりますので、添付図書と構造計算適合性判定の手数料（土木事務所受付の場合）をお知らせします。

### 建築確認申請添付図書

（正本一通、副本一通〔構造計算適合性判定を要する場合は二通〕、消防同意用副本一通）

- 建築確認申請書
- 建築計画概要書
- 委任状（代理者による申請の場合）
- 建築士免許証の写し（設計者、工事監理者、建築設備設計者、構造設計者）
- 構造計算安全証明書の写し（士法第20条第2項の規定による）
- 構造計算プログラム入力データ（磁気ディスク、CDROM等）
- 設計図書（規則第1条の3で定めるもの）  
【正本に設計者の資格の記載、記名及び押印、構造計算書は表紙のみ】  
主な新規図書・・・構造計算概要書、応力図  
基礎反力図、断面検定比図
- 建築工事届
- 浄化槽設置概要書（関係書類一式を含む）

### 完了検査申請添付図書

（正本一通）

- 完了検査申請書
- 建築士免許証の写し  
【最新の申請書から設計者、工事監理者に変更があった場合のみ】
- 軽微な変更説明書（規則第3条の2に該当する場合のみ）
- 内装の仕上げの部分を書した写真

### 中間検査申請添付図書

（正本一通）

- 中間検査申請書
- 建築士免許証の写し  
【最新の申請書から設計者、工事監理者に変更があった場合のみ】
- 軽微な変更説明書（規則第3条の2に該当する場合のみ）

### 構造計算適合性判定手数料(土木事務所受付)

建築物の床面積 A(m <sup>2</sup> )	適合性判定手数料(円)	
	大臣認定プログラムを使用した場合	左記以外
A ≤ 1000	140,000	206,000
1000 < A ≤ 2000	173,000	272,000
2000 < A ≤ 10000	189,000	305,000
10000 < A ≤ 50000	239,000	404,000
50000 < A	404,000	735,000

- ・適合性判定の要否は棟（構造計算書）を単位として判定します。
- ・エキスパンションジョイントが設けられている場合は、別棟とします。
- ・適合性判定の手数料は1棟単位で計算し、従来の手数料と合算します。
- ・同一棟での増築の場合（適合性判定を必要とする場合）は、既存+増築の面積で手数料を算定します。
- ・土木事務所以外の特定行政庁で受け付ける場合は多少金額が異なります。

詳しくは大分県ホームページをご覧ください。

URL <http://www.pref.oita.jp/18500/kaisei/kijunnhoukaisei.html>

### 防災講演会の開催について

対象 一般個人向け

目的 木造戸建て住宅の耐震化を啓発することにより、災害に強いまちづくりを目指す

日時 平成19年10月16日（火）  
13:00～16:00（予定）

場所 コンパルホール 多目的ホール

講師 名古屋大学大学院教授  
工学博士 福和伸夫氏



## 事務局だより



### 就任ご挨拶

建築士会事務局長 幸 孝三

許斐さんの後任として就任しました幸です。会員のみなさんどうかよろしくお祈りします。

これまでは一会員としての立場でしたが、これからは事務局として皆さんのお世話をさせていただくことになりました。会長、理事さんはじめ会員の皆さんにとってはいろいろと変革の時期にさしかかっているのではないかと思います。私も事務局長として縁の下を支えて行きたいと思っています。ところで話は変わりますが私が建築士会に入ったきっかけはソフトボール大会だったと思います。先輩に「大

会に入るから建築士会に入れ」ということだったと思います。私もソフトボールが好きだったこともあり直ぐに入った訳ですが、その年の大会で優勝したのです。折しも別府で建築士会の創立25周年記念式典が開催されていましたが優勝チームとして拍手のなか入場行進したのを思い出します。そして来年の大会も、とチームメイトと話していましたが、これがきっかけで、スローピッチルールに変わりました。他の支部の方から「もうあんたに投げさせん(冗談で)」と言われました。

それ以来、ソフトボール大会はもちろんですが、支部行事に一会員として楽しく参加してきました。それから、多くのすばらしい会員と知りあうことができ、今ではいい思い出としてころのなかにいきています。私は会員としてメリットをそんなに意識したことはありませんが「これがメリットだよ」と、そして建築士会の会員であることを、よかったと今は思っています。

これからは、一会員としての立場から変わりますが、私として出来ることを、そして皆さんの力になれるように頑張っていきたいと思っています。

## 新 会 員 紹 介

(平成19年4月～8月入会)

支部	氏名	勤務先	所在地	TEL
別府	手嶋 祥一	自営	別府市朝見2-7-11	(0977)25-1225
別府	緑川喜一郎	㈱オクト・パス	別府市石垣西3-1-5	(0977)23-8802
大分	安部 照男	㈱佐伯建設	大分市中島西3-5-1	(097)536-1538
大分	安部 義己	(社)大分県建築士会建築構造技術センター	大分市大手町3-2-14 アネックス大手町3階	(097)529-5565
大分	太田 将弘	大分市下水道施設課	大分市城崎町2-3-4 城崎分館	(097)537-5642
大分	岡本 武視	㈱片平設計	大分市長浜町1-9-8 トーカンマンション大分県庁東310	(097)529-6262
大分	小川 公一	小川建築設計事務所	大分市乙津港町1-2-3	(097)551-5742
大分	織田 貴裕	㈱東洋サッシ工業	大分市萩原1-2-48	(097)555-9898
大分	小野 頌悟	大分市建築課	大分市荷揚町2-31	(097)534-6111
大分	川野 祥	大分市街路建設課	大分市荷揚町2-31	(097)534-6111
大分	佐藤 典美	(社)大分県建築士会建築構造技術センター	大分市大手町3-2-14 アネックス大手町3階	(097)529-5565
大分	宿理 浩司	大分市建築課	大分市荷揚町2-31	(097)534-6111
大分	高橋奈保子	大分市都市計画課	大分市荷揚町2-31	(097)534-6111
大分	恒松 巧希	㈱新巧住建	大分市花高松2-1-11	(097)556-3090
大分	坪井 一泰	㈱蔵人 一級建築士事務所	大分市萩原4-14-10	(097)556-9878
大分	永井 雅之	学構造設計事務所	大分市東浜2-9-27	(097)551-4373
大分	藤澤 隆介	大分市住宅課	大分市荷揚町2-31	(097)534-6111
大分	三ッ股嗣朗	大分県	大分市大手町3-1-1	(097)536-1111
大分	山崎 真司	神力建築工房	大分市西大道1-1-34-3号	(097)545-0959
大分	吉田 豊喜	吉田構造設計事務所	大分市判田台東2-7-7	(097)586-7488
大分	和田恵利子	㈱エイチエム建築企画室	大分市中島中央2-1-6	(097)538-2028
臼杵	梅田 雄也	梅田建築	臼杵市佐志生	(0972)68-3600
臼杵	二村 貴	㈱二村鋳金工作所	臼杵市大字諏訪642-3	(0972)63-0505
佐伯	風戸 庸秀	佐伯市役所	佐伯市中村南町1-1	(0972)22-3111
日田	朝野 文博	自営	日田市亀川町939 千原アパートⅡ203	
日田	鬼武 雅之	㈱マサキ	日田市南友田985番地の1	(0973)26-0311
日田	櫻木弘三郎	㈱櫻木総合建築	日田市大字庄手409-1	(0973)22-3006
日田	澤熊 祐子	㈱イーエイチ設計	日田市三本松新町475-1	(0973)22-4237
宇佐	永野 正治	下村建設㈱	宇佐市安心院町下毛1890-1	(0978)44-0247



## 社団法人 大分県建築士会 建築構造技術センターの発足について

去る6月18日、「社団法人 大分県建築士会 建築構造技術センター」の開所式が行われました。

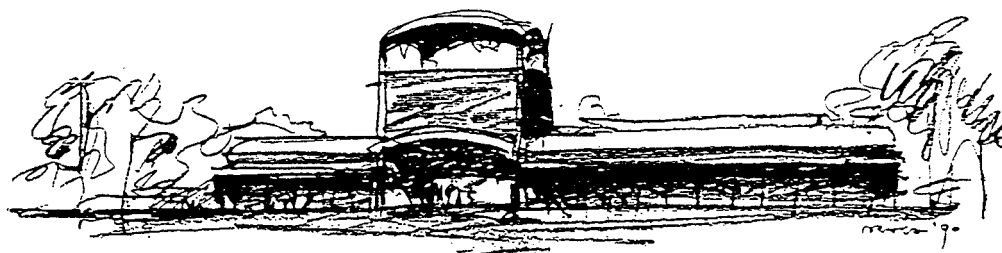
当日は沖本副会長の進行により、まず、芳山会長から許斐センター長、佐藤・安部両判定員及び事務スタッフに辞令が交付されました。

引き続き芳山会長の主催者挨拶、汐月県建築住宅課長の来賓挨拶、センター長の設立の経過報告があり、看板の序幕、ご来賓の松井建築設計事務所協会会長の音頭によるジュースでの乾杯をして、発足を祝いました。

県外に構造計算の適合性判定をお願いしなくて済むように、という本会の一年弱の取り組みも、ようやくここに結実しました。

私たち建築に携わるものは、設計者・施工者、官・民、一体となって県民の建築構造技術への信頼を回復しなければなりません。このセンターがその重責の一端を担うものとして発足したことを、会員のみなさんと共に祝いたいと思います。

〈事務所所在地〉大分市大手町3丁目2番14号 アネックス大手町3F  
TEL : 097-529-5565 FAX : 097-529-5567



1996.No.66 より

# 平成19年度 通常総会報告

5月30日（水）13時30分より、大分文化会館において平成19年度通常総会が開催され、平成18年度事業報告・収支決算報告、平成19年度事業計画・収支予算が満場一致で可決されましたので、以下のとおりご報告いたします。

## 1. 平成18年度事業報告書（略）

## 2. 平成18年度収支決算書

### ◎収支決算書

自：平成18年4月1日 至：平成19年3月31日

#### (1) 収入の部（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額
会費収入	18,310,800	16,034,200
事業収入	2,880,100	3,775,976
補助金交付金収入	300,000	300,000
雑収入	14,554	329,906
積立預金取崩収入	2,000,000	2,000,000
繰越金	2,505,546	2,505,546
収入合計(A)	26,011,000	24,945,628

#### (2) 支出の部（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額
管理費	6,750,000	6,307,657
事業費	17,161,000	17,550,812
予備費	2,100,000	688,236
支出合計(B)	26,011,000	24,546,705
次期繰越収支差額(A-B)		398,923

### ◎貸借対照表（略）

### ◎財産目標 平成19年3月31日現在

#### (1) 資産の部

1. 流動資産		43,685,909	
普通銀行	大分銀行	17,253,703	
現金		25,540	
定期預金	中央三井信託銀行	10,000,000	
定期預金	みらい信用金庫	8,406,666	
定期預金	豊和銀行	8,000,000	
2. 固定資産		1,320,000	
敷金	田原ビル	600,000	
	アネックス大手町	720,000	
資産合計(C)		45,005,909	

#### (2) 負債の部

I 流動負債		328,074
1. 預り金(所得税等)	228,074	
2. 未払金	0	
3. 災害引当金	100,000	
II 固定負債		0
負債合計(D)		328,074
正味財産合計(C-D)		44,677,835

### ◎剰余金処分

本年度剰余金 398,923円

これを次のように処分する。

次年度繰越剰余金 398,923円

以下のとおりである。

平成19年5月30日

社団法人 大分建築士会  
会長 芳山 憲祐

## 3. 監査報告書

平成18年度決算書（収支計算書・貸借対照表・財産目標）及び会計諸帳簿、関係書類等の監査を実施致しましたが、正確かつ適正であることを認めます。

平成19年4月26日

監事 道吉 栄一  
監事 豊島 範幸  
監事 稲葉 孝博

## 4. 平成19年度事業計画

### 1. 社会的活動

(1) 地域貢献活動センターの設立・まちづくり活動への積極的参加

(2) 「建築士の日」の事業実施

(3) 応急危険度判定業務のネットワーク構築

### 2. 教育活動

(1) 継続能力開発（CPD）制度の推進

(2) 「建築士のための知事指定講習会」の実施

(3) 建築基準法及び関係法令の特別講習会の実施

(4) 研修会、研究集会の実施

(5) もくもく塾大分の開催

(6) 県産木造住宅建設支援事業の実施

- (7) 全国大会への参加 9月8日(土)北海道帯広
- (8) 九州ブロック主催の講習会、研修会への参加

### 3. 組織の強化と活性化

- (1) 会員の増強
- (2) 専攻建築士制度の推進
- (3) 財政強化
- (4) 青年、女性建築士活動の推進
  - ・全国青年委員長会議、全国女性建築士連絡協議会への参加
  - ・「建築士の集い」大分大会の開催  
6月23日(土)大分文化会館
  - ・サマーセミナーの実施  
9月15日(土)日田支部
  - ・「パッションIN佐賀」への参加  
2月9日(土)佐賀県唐津市

### 4. 建築行政及び関係団体への協力

- (1) 違反建築防止週間及び建築物防災週間への協力
- (2) 大分県建築物総合防災推進協議会への協力
- (3) 大分県木造住宅等推進協議会への協力
- (4) その他行政・関連団体への協力

### 5. 受託事業

- (1) 一級、二級・木造建築士試験業務
- (2) 昇降機等定期検査報告業務
- (3) 構造計算適合性判定審査業務
- (4) その他、建築・まちづくり等に関する受託業務

### 6. 広報・福利厚生業務

- (1) 「建築士おおいた」の発行及び連合会発行の「建築士」の配布

- (2) ソフトボール大会の開催
- (3) ホームページの充実
- (4) IT活用によるネットワークづくりの推進
- (5) 図書の紹介及び斡旋
- (6) 「住宅検査・保証制度」の加入促進
- (7) グループ保険、建築士賠償責任保証制度の普及及び加入促進
- (8) その他、会員の福利厚生に関すること

### 5. 平成19年度収支予算書

自：平成19年4月1日  
至：平成20年3月31日

#### (1) 収入の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
会費収入	16,034,200	18,155,800
事業収入	3,775,976	5,068,100
補助金交付金収入	300,000	1,040,000
雑収入	329,906	30,000
積立預金取崩収入	2,000,000	2,000,000
繰越金	2,505,546	398,923
収入合計(A)	24,945,628	26,692,823

#### (2) 支出の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
管理費	6,307,657	6,315,000
事業費	10,573,787	18,377,823
予備費	688,236	2,000,000
支出合計(B)	24,546,705	26,692,823

**編集委員会では  
みなさんの投稿を待っています。**

絵・スケッチ・CG・詩・短歌・俳句・随想なんでも結構です。あなたの知られざる才や技を御披露いただきたいのです。

各支部の編集委員までおとどけください。本部に直接送ってくださってもかまいません。よろしくお願い致します。



100号記念に携わって光栄です。TK.

建築士はあいた100号ヤタ〜(^^) /  
昔の冊子を見よとみなエモ若い!  
でも自分の名田んないなあ〜 K.K.



「会報100号」という記念すべき号の  
編集に携わる事が出来、  
大変光栄に思います。  
ありがとうございました。  
A.T

今回は頑張りました。  
みなさん編集委員しませんか。  
nao

#### 広報委員

担当副会長	〈佐賀関〉川口青史
委員長	〈大分〉長野保幸
委員	〈大分〉宮崎隆博
〃	〈国東〉上野貢一
〃	〈別府〉河村靖
〃	〈臼杵〉板井登喜雄
〃	〈三重〉岡部達巳
〃	〈玖珠〉穴井和興
〃	〈中津〉富部直
〃	〈日田〉日高淳一

#### 編集委員

委員長	〈大分〉笠木忠昭
副委員長	〈津久見〉竹田光徳
〃	〈日田〉秋和夫
委員	〈高田〉後藤憲二
〃	〈国東〉菊本軍治
〃	〈別府〉岡田宏基
〃	〈大分〉三ッ股嗣朗
〃	〈大分〉坪井敬行
〃	〈大分〉飯倉尚之
〃	〈大分〉岐部和久
〃	〈大分〉高山鮎美
〃	〈佐賀関〉川口尚文
〃	〈臼杵〉河野恵美
〃	〈佐伯〉寺前嘉二
〃	〈佐伯〉中田智佐美
〃	〈三重〉後藤康仁
〃	〈竹田〉伊東政博
〃	〈玖珠〉佐藤誠司
〃	〈中津〉松下明美
〃	〈宇佐〉奥田和彦

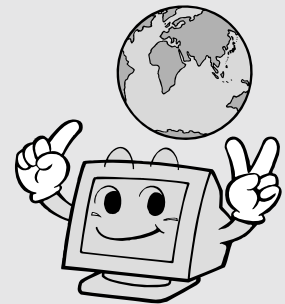
建築士大分 2007.9 No.100 (非売品)

平成19年 9月1日 印刷  
平成19年 9月1日 発行

編集/発行所  
社団法人 大分県建築士会  
〒870-0022  
大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F  
TEL 097-532-6607  
FAX 097-532-6635

印刷所/いづみ印刷株式会社 大分市高江西1丁目4323番25 TEL (097) 535-8655

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高 田	879-0605	豊後高田市御玉199	0978-24-0418
国 東	873-0503	国東市国東町安国寺718	0978-72-2887
別 府	874-0845	別府市大字鶴見字角田3220-3 別府建築士事務所会館	0977-67-4488
本 部・大分	870-0022	大分市大手町2-2-7 田原ビル2F	097-532-6607
佐 賀 関	879-2201	大分市大字佐賀関3068 高島建設(株)内	097-575-0116
臼 杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下1000-1 (尙みえのブロック内)	0972-63-6695
津 久 見	879-2475	津久見市大字堅浦421-3	0972-82-1805
佐 伯	876-0813	佐伯市長島町1-3-11	0972-23-6099
三 重	879-7131	豊後大野市三重町市場701-5 ウィリングリービル	0974-22-6606
竹 田	878-0026	竹田市大字飛田川1618-6	0974-62-3711
玖 珠	879-4331	玖珠郡玖珠町大字戸畑3466-1 高倉ホーム内	0973-73-7436
日 田	877-0025	日田市田島1-7-43-1F 102 (尙藤原設計内)	0973-24-6022
中 津	871-0024	中津市中央町1-5-24 中津建築会館	0979-24-3597
宇 佐	879-0454	宇佐市大字法鏡寺290-1 服部第3ビル102号	0978-33-3395
本 部	<a href="http://www.oita-shikai.or.jp/">http://www.oita-shikai.or.jp/</a>		
国 東 支 部	<a href="http://www18.ocn.ne.jp/~ksikai/">http://www18.ocn.ne.jp/~ksikai/</a>		
別 府 支 部	<a href="http://www.beppu-yukemuri.com">http://www.beppu-yukemuri.com</a>		
大 分 支 部	<a href="http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/">http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/</a>		
佐 賀 関 支 部	<a href="http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/">http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/</a>		
臼 杵 支 部	<a href="http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/syoukai.htm">http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/syoukai.htm</a>		
津 久 見 支 部	<a href="http://www.bungo.or.jp/t-shikai/">http://www.bungo.or.jp/t-shikai/</a>		
佐 伯 支 部	<a href="http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/">http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/</a>		
三 重 支 部	<a href="http://www16.plala.or.jp/sok-mie/">http://www16.plala.or.jp/sok-mie/</a>		
竹 田 支 部	<a href="http://ww61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm">http://ww61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm</a>		
玖 珠 支 部	<a href="http://homepage3.nifty.com/ken-kusu/">http://homepage3.nifty.com/ken-kusu/</a>		
日 田 支 部	<a href="http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm">http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm</a>		
中 津 支 部	<a href="http://kentikusi-nakatu.net/">http://kentikusi-nakatu.net/</a>		
宇 佐 支 部	<a href="http://www.d-b.ne.jp/usasikai/">http://www.d-b.ne.jp/usasikai/</a>		



**会員増強にご協力を！**

～会員二人で、一人の入会勧誘を～

**目標3,000人突破**

## 災害に備えるエネルギー

# LPガス

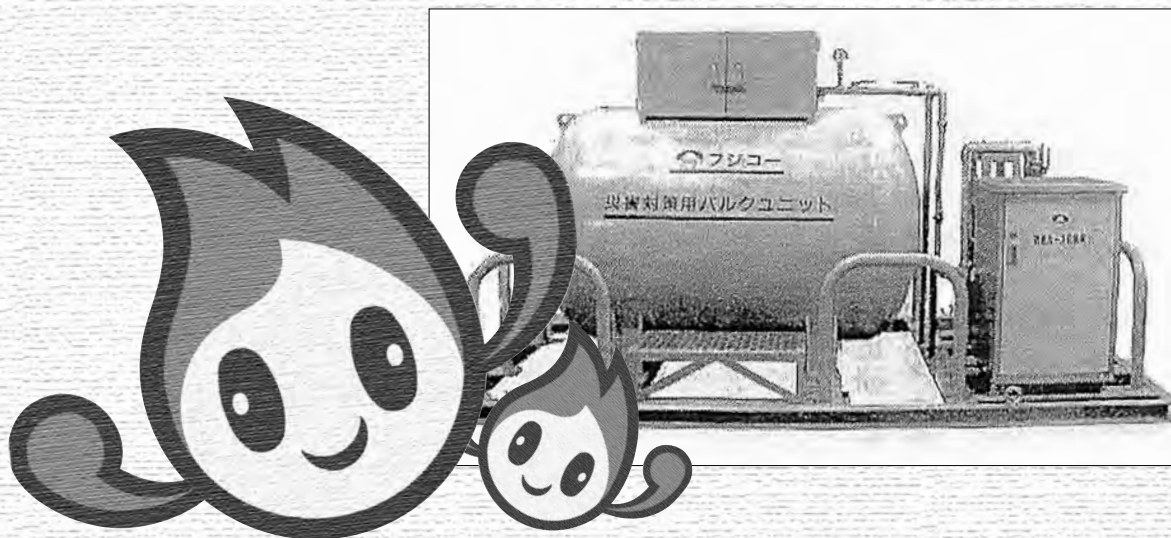
知っているようで  
意外と知らないガスのお話 **その2**

## LPガスで災害に備えよう

災害時に供給の途絶が少なく、いち早く復旧するLPガスは、「災害に備えるエネルギー」として期待することができます。災害時の一時のぎではなく、常時使うことが災害に備えることにつながります。

### 「災害対策用バルクユニット」

自然災害時に避難場所となる、学校などの公共施設などにぜひ



子どもたちの未来に炎の文化を伝えよう  
**社団法人 大分県エルピーガス協会**

〒870-0901 大分市西新地一丁目9番5号 TEL(097)558-5482  
<http://www.oitalpg.or.jp>





今こそ大分県建築士会へ

# 会員募集中

## 入会のご案内

●建築士会とは…建築士法で定められた公益法人で、全国の都道府県に設立されています。

建設業の不況・不信・人間関係の希薄化…。  
こんなご時世だからこそ!!  
みんなで協力・切磋琢磨する事が大切です!!



- スキルアップのために～各種講演会、セミナーに参加しスキルアップを図りましょう。
- ネットワークをつくろう～多くの仲間と知り合うことでネットワークが広がります。
- あなたの得意分野を伸ばそう～専攻建築士制度を活用し社会のニーズに適應しよう。

## 入会資格

建築に興味のある方。(建築士である必要はありません。)



## 入会手続き

大分県建築士会事務局及び各支部事務局にて随時受付中!  
入会申込書は大分県建築士会HP  
(<http://www.oita-shikai.or.jp>)にてダウンロードできます。  
最寄の支部の検索・支部のHPもここから閲覧可能です。

## 費用

入会金 1,000円  
会費(本部会費) 800円/月  
(支部会費) 400～1,200円/月 (各支部によって異なりますので、ご確認ください。)



士会が主催する研修会に会員価格で参加できる等特典満載です。  
たくさんの人と出会い、語ることでお互い自己啓発していきましょう!!

問合せは・・・(社)大分県建築士会 (097)532-6607 及び各支部の事務局へ